

# 平成25年度事業報告書

自 平成25年4月1日  
至 平成26年3月31日

公益財団法人 **オイスカ**

## はじめに

昨年 11 月にフィリピンを襲った大型台風ハイヤンが、未曾有の大災害をフィリピン中部地域にもたらしたことは記憶に新しいところです。それから半年を経た現在に至っても、瓦礫処理、住宅の再建問題などの課題が山積し、復興支援活動もより迅速な対応が求められています。一方で、オイスカが 25 年前から植林してきた 100 ヘクタールのマングローブ林が被災地住民の生命と財産を守ったという報告も現地から届いています。また、東日本大震災の復興支援の一環としていち早く取り組んできた宮城県名取市での海岸林再生プロジェクトも、いよいよこの春から抵抗性クロマツを中心とした植栽も始まりました。これは、向こう 7 年間で約 100 ヘクタール 50 万本を植栽する国内ではビッグプロジェクトの一つであり、地元住民から大きな期待がかかる長期的な取り組みでもあります。

このような、オイスカが過去半世紀以上にわたり、それぞれの地域住民らと手を携えて地道にコツコツと取り組んできた活動は、昨今の地球温暖化に伴う自然災害に対する防災・減災的な役割も十分に果たしていることが証明されてきております。いずれに致しましても、オイスカに対する国内外からの期待は日増しに増大しており、その期待に応えるべく、精神と物質の調和した持続可能な社会形成を目指して、引き続き活動を続けて行かなければなりません。

本年度は、5 月に福岡県朝倉市において、グリーンウェイブ 2013 in あさくら「子供環境フォーラム」が開催されました。式典には、国連生物多様性事務局からニールプラット上級環境担当官を迎え、生物多様性と子供たちの役割と題して活発な議論が展開されました。これに続き、6 月にはフォーラムに参加した高校生代表が子供親善大使としてニューヨークの国連本部及びモンリオールの生物多様性条約事務局本部を訪問し、植林活動などの各種イベントに参加すると共に、絶滅危惧種の保護を訴えました。また、9 月には 9 年ぶりにアジア太平洋青年フォーラムがマレーシアのマラッカで開催され、26 カ国から約 300 名の青年たちが集まり、オイスカの提唱する“ふるさと”づくりについて活発な討議がなされました。

さて、平成 25 年度①海外開発協力事業では、アジア太平洋地域を中心に 11 カ国において植林等の環境保全活動や現地の研修セターを拠点として、農業を通じた人材育成、NGO 連携無償資金によるミャンマーでの「農村開発のための人材育成拠点の整備並びにマグウェ地域生計向上プロジェクト」が採択され、同地域の生産性の向上と人材育成促進のための活動が開始され、今後多くの農民への裨益が期待されています。また、②「子供の森」計画事業は 33 の国と地域において、児童・生徒を対象に、体験型環境教育プ

プログラムの実施と植林等の環境保全への取り組みを行い、全体で4,650校の参加となりました。③人材育成事業では、当法人の発足当初から継続的に取り組んでいる開発途上国からの研修員受け入れをはじめ、マレーシア、マラ公団からの短期研修生、学生などの受け入れも実施しました。④啓発普及事業では、全国組織を通じての様々な啓発事業のほか、海岸林再生プロジェクト10カ年計画もいよいよ3年目に入り、本格的な植栽に向けて被災地住民と一体となつての取り組みを行っております。また、森のつみ木広場の開催、海外ボランティア派遣、富士山の森づくり等の活動、さらには国際会議の開催・参加、各種シンポジウム、セミナー等の実施を通じて、多くの国民の参加を得ると同時にマスコミ等の報道も得て広く国際協力や環境保全活動に対する国民の理解促進に寄与することができました。

平成25年度も厳しい予算編成の中、当初の事業計画で予定しておりました諸々の事業を恙無く実施出来ましたことを賛助会員の皆様をはじめ、ご協力いただきました法人、個人、全ての関係者の皆様に厚く御礼申し上げますとともに、オイスカ活動へのさらなるご支援とご指導を賜りますよう、お願い申し上げます。

平成26年6月

公益財団法人オイスカ  
理事長 中野 利弘

# も く じ

はじめに

1. 海外開発協力事業	1
2. 「子供の森」計画事業	9
3. 人材育成事業	13
4. 啓発普及事業	25
5. 収益事業	41
6. 組織の運営	43



## 1. 海外開発協力事業

### 1. 序 文

当法人が進める海外開発事業の中心軸は、持続可能な地域開発、「ふるさと」づくりである。活動の舞台は、農村部が主体だ。「ふるさと」を成り立たせる要素は、環境、産業、教育、医療など多岐にわたる。人も年配者ばかりでは、活性化しにくい。子供、女性、若者が生きていける場が必要だ。ただ、私たち外部者である NGO は、資金も人材も限りがあり、残念ながらその全てを解決できるわけではない。そこで、「ふるさと」を創る上で最も効果的であり、且つオイスカの強みである、環境保全、人づくり、そして産業支援を活動の柱として推進している。これら3つの柱の活動が起爆剤となり、地域の人や経済が活性化し、他の分野の改善にもつながっていくことが期待される。

もうひとつ、プロジェクト終了後の自立発展性を考えると必要なのが、住民の主体性涵養と、自治体の主体的な協力である。そこに住む人々や政府が、支援活動の意義を認識し、プロジェクト終了後、責任をもって活動を継続していかなければ、支援の意味がなくなってしまうからである。

さらに、忘れてはいけないのは、ドナーの存在だ。企業、労働組合、そして一般国民の方々が、会員として、あるいは寄付者として、各国のプロジェクトを支援してくださっている。こうしたドナーに対して、海外での活動の意義を伝え理解いただくことも「開発協力事業」の活動の中の重要な柱となっている。

地域の住民や自治体の理解促進、そして、ドナーの理解促進のため、ドナーに対して現地にも足を運んでもらうツアーも企画されている。両者が会うことで、プロジェクトのニーズ、意義の理解が進み、交流が生まれ、支援の継続へつながっていくのである。

こうした要素が詰まった事例を以下に何件か紹介していきたい。

### 2. プロジェクトの実施成果

#### <自然再生・保全活動>

持続可能なコミュニティ、「ふるさと」の基盤となるのが、人々の生業を支えるとともに、子供たちへのよりよい生育環境も約束する自然環境だ。海のサンゴ礁、沿岸のマングローブ林、山の森、そして里では、屋敷林や学校林などがその役割を果たす。25年度も、フィジー、パプアニューギニア、インドネシア、マレーシア、フィリピン、タイ、バングラデシュ等で、ふるさとづくりの一環としての植林活動やサンゴ礁保全など、自然の再生・保全を行った。

#### ● サンゴ礁保全プロジェクト（フィジー）

フィジーにおける特徴的な活動の一つであるサンゴ礁保全プロジェクトでは、平成25年度も継続的にサンゴ片の定植を行った。更に、定植したサンゴ片が成長できる環境を整えるため、天敵となるオニヒトデの除去や、共生関係の高い大シャコガイの設置などを、MPA（Marine Protected Area・海洋保護区）となっている活動場所を中心に行い、定植活動の効果を更に高められるように取り組んでいる。MPAは、村人の総意によって設置されるが、それによって彼らが生活の糧を失うことにもなる。そのため、MPAとして守る場所、生活の糧を得る場所のバランスを考えたり、代替収入の提案を行ったりするなど、村でのワークショップによる理解を深めることが不可欠であり、この点は今後も継続的に続ける必要がある。フィジーの海を舞台に持続可能な生活を模索することが、結果としてサンゴ礁の回復・保全に寄与していくとの意識から、活動を継続していく。

- マングローブ植林プロジェクト（インドネシア、タイ等、5カ国）

平成25年度も、インドネシア、タイ、フィリピン、バングラデシュ、そしてフィジーの5カ国において、マングローブ植林活動を行った。近年の、気候変動に起因する異常な高波などの多発は、マングローブの植林をより困難にしている。フィジーでは、未曾有のサイクロンが植林地を襲い、沿岸にある育苗場のほとんどが流されてしまった。インドネシアでも、予想をはるかに上回る雨期の長雨が続き、上流からの濁流が河口に植えたマングローブを襲った。ただ、そうした経験したことのない、異常な規模の自然災害は、住民のマングローブ植林活動への参加意識を高めてもいる。

フィジーの事例を紹介したい。フィジーの島々の沿岸は、海の波が常に押し寄せるような砂浜が多く、マングローブ生育適地はわずかである。でも、そのわずかな適地に育っていたマングローブ林が伐採されると、その適地の泥は流され、適地ではなくなり、やがて沿岸の浸食を引き起こすことになる。そんな村のひとつ、ピチレブ島南岸のコロトゴ村は、村と海岸の間に道路が走っていたが、サイクロンで海岸の泥は流され、道路も崩れるなどの被害が起きていた。2004年から植林を開始した当初は、植林した苗が何度も流されるなど、活着率が悪く非常に苦勞したが、それでも繰り返し植林する内に、現在では村を守る立派なマングローブ林帯ができあがった。そして成木は苗を供給し、林内には、他の海岸で植えるための育苗場が作られている。育苗場は、タコ足が幾重にも生えたような根を持つマングローブの木々に囲まれて、波から守られている。今では、たくさんの視察者が訪れるようになり、辛抱強く関わってきた村人の苦勞が報われた形になっている。そしてもちろん、その影には、粘り強く村人をサポートしてきたオイスカのスタッフたちの姿がある。つまり、プロジェクトで生まれたマングローブ林は、沿岸に住む人々とオイスカスタッフによる沿岸を守る戦いの軌跡でもあるのだ。

- 農村女性のエンパワーメントを通じた食生活環境の改善と地場産業の育成事業（インドネシア）

近年工場などが進出し開発が進むジャワ島西部スカブミ県にて、経済開発の陰で雇用機会に恵まれず貧困にあえぐ主婦層を対象に、収入向上と栄養改善を目指して、家庭菜園の指導、組合づくり、加工食品の製造販売までを支援するプロジェクトを3年計画にて、味の素の支援を得て行った。平成25年度は最終年度であったが、受益者の90%において栄養や衛生の改善が見られた他、同じく90%の受益者がプロジェクト終了後も、自主的な管理のもと、家庭菜園や組合での共同菜園、そして食品加工に関わっているなど、高い成果を上げることができた。食品加工品の直売所も自主的に運営・管理されるなど、第1次産業から第2次そして第3次産業まで関わる主婦を中心とした、新しい持続可能な産業が生まれつつある。

- “FURUSATO”環境保全プロジェクト（タイ）

北部タイ地域では、森林伐採や土壌の劣化による環境破壊が進んでいる。もともとはチークを中心とした森が広がる一帯だったが、1950年以降に違法伐採が進んだ。伐採の跡地は焼畑により農地に転換され、化学肥料を用いた単一作物栽培などのために土壌の劣化、またそれに起因する農業への病虫害被害も報告されている。また、雨季に大雨が降ると洪水や土砂崩れが起き、乾季には山火事を誘発するなど、環境にも人間生活にも深刻な被害が起きている。プロジェクト実施地であるチェンライ県チェンコン郡も、30～40年前頃までに伐採が進み、その結果、毎年乾季には山火事が頻発し、その煙害のひどさは隣国ミャンマーの空港に飛行機が着陸できないほどになっている。

こうした問題を解決するには、表面的な対策ではなく、地域住民の意識と行動を変えていくことで問題の根本にアプローチすることが不可欠である。そこで2012年度より5年間の計画で花王株式会社の支援を受け、地域住民自身による植林と、環境教育を通じた住民へのエンパワーメントを行うプロジェクトを開始した。植林活動により生態系の保全に取り組むと同時に、自然と調和した地域社会づくりのための知識・技術・ライフスタイルを普及することで、持続可能な地域社会づくりを目指している。

平成25年度は、年度の初め頃に当地で大規模な山火事が発生。昨年度植林した木々が一夜にして燃えてしまうということがあったが、かつては山火事を放置していた村人たちも昨年度1年間かけて育ててきた森への意識が高く、旧正月の休みにもかかわらず、すぐに火を消し止めに走ってくれた。木が燃えてしまったのは残念ではあったが、住民への啓発という意味では着実に成果が表れ始めていると言える。

その後、延焼区域への補植と共に当初の計画通り7ヘクタールの新規植林を行った。また当地では周辺に住む子供達を対象とした山火事防止デイキャンプを実施。子供たちに山火事について考えてもらい、実際に火事が起こった時にどうするのか、また起こらないようにどうするべきなのかを教えた。身の回りの環境を大切に守り、育てていくという意識が高まった。

### <海外人材育成>

平成25年度も、オイスカの研修センター等を拠点とし、全12カ国で合計704名に上る、当該国の若者への人材育成活動を実施した。地域の開発・活性化の核となるリーダーを育てることを目指しての育成であるが、どの国でも、有機農業だけではなく、農村地域で生きていくための様々な力を身につけられるような研修に努めている。

ここでは、ミャンマーの例について紹介したい。近年、ミャンマーは急速に経済開発が進み、若者はヤンゴンを目指すようになってきている。この煽りを受けて、農村部の若者はますます減少し、都市と地方の格差が進むことが懸念されている。このような農村部の課題に応えることは容易ではないが、ミャンマーでは、有機農業だけでなく、食品加工、そして販売にいたるまでの研修体験を織り交ぜ、若者が村に住み、起業して生きていくための研修を行っている。研修は、具体的には、稲作、ぼかし作り、野菜栽培、養豚、養鶏等の農業から、機械修理、縫製、食品加工、衛生、緑化、日本語会話など多岐にわたる。また、研修終了後、起業を希望するOB・OGのための資金支援（ローン）も用意するなど、彼らの農村部での生活を支援する体制を作っている。平成25年度は、少数民族の住む地域を含むミャンマー各地からの若者、17名（男子8名、女子9名）へこうした研修を行い、3月20日無事修了した。彼らの多くは再び故郷へ戻り、研修で身に付けた知識技能を糧に農業等の生業に従事し、村に根を張りながら、地域のリーダーを目指すことになる。

### <持続可能な産業の開発／促進活動>

「ふるさと」づくり、を実現していく上で不可欠なのが、持続可能な産業の開発とその振興である。産業はその国、地域の自然環境や文化、民族などの特性に合ったものでなければ、根付きにくい現実がある一方で、グローバル化の進展から、世界の隅々まで、新しい技術や製品が入り込んできており、伝統技術を応用するだけで産業が育つという時代でもなくなっている。地域の技術・地財を活かしつつ、最新の技術にもアンテナをはり、場合によっては、グローバルな力を上手に活用しながら生きていく方法を提案していくことも必要だ。フェアトレード等もこの部類に入るであろう。平成25年度も、国際協力団体の強みを活かして、ローカルとグローバルの技術・人を結びつなげつつ、各国で、産業開発支援を行っている。



- 熱帯雨林保全プロジェクト（パプアニューギニア）

業者による大規模な伐採や、オイルパームへの転換が進み、急速な森林破壊が進む、パプアニューギニアにおいて、現地の住民が、森林伐採業者等に地権を譲渡することなく、且つ、森とともに生活していくことのできる持続可能なライフスタイルの実現を目指し、コスモ石油エコカード基金の支援を得て、有機農業や森の産物を活かした持続可能な生業支援を行っている。オイスカの拠点のあるニューブリテン島の北部で、研修センターと少数民族が住む周辺の山の中の4か村を舞台に活動している。

平成25年度も、森を焼き払わないで済む有機農業推進のリーダーとなるべき人材の育成や、その鍵を握る女性のエンパワーメント等を中心に活動を行った。また、現地の資源を活用した特産品として、籐製品づくりの研修を実施した。さらに、対象村では植林活動や同村出身の指導員による、小学校での環境教育などの活動も行った。

- ネグロス産業支援事業（フィリピン）

平成23年10月よりスタートした独立行政法人国際協力機構（JICA）とのパートナーによるネグロスシルク産業支援事業において事業終了前に達成すべき課題として、養蚕農家数の増加と安定した生糸生産を、専門家からの指導を受けた普及員を中心に行っている。特に養蚕農家とのコミュニケーション能力を強化するために、モニタリングやセミナーの開催を必要に応じて行っている。また、フィリピンにおける養蚕事業の将来を見据えた技術や養蚕知識の習得を促すためにモデル農家の選定と表彰を行い、普及活動の中に現地養蚕農家を巻き込む形での普及体制を確立してきた。平成25年度は、養蚕技術の定着によって繭質、生産量ともに改善されると共に養蚕農家同士の横のつながりを強調させることで、農民の自立促進を図った。また、地場産業として確立するための新たな取り組みとして副蚕糸加工や最終製品開発に力を入れるとともに、各種催し物への参加を通じて販売・広報にも力を入れた。

### <災害支援>

- ヴィサヤス地域 台風被害支援（フィリピン）

2013年11月8日史上最大級の猛烈な規模でフィリピン中部を襲った台風30号（ハイエン）は、数千人の死者、数百万人の被災者を出すなど同国に甚大な被害をもたらした。オイスカも台風直後から、支援金を募り、緊急支援を行った。特に、台風が通過し、家屋倒壊など大きな被害を受けた、ネグロス島北部のサガイ市やマナプラ町、パナイ島北西部のアホイ町、そしてパラワン島中部にて、緊急支援として、雨露をしのぐための屋根の材料や家屋修理のための資材提供や保育所の修繕支援を行った。また、田畑も被害を受け収入もなくなった被災民に缶詰等の食料配布も行った。さらに、日本救援衣料センターとの連携協力により、ネグロス島北部のサガイ、マナプラなどの被災地住民に、27トン（約189,000枚）の衣料を配布した。

### <調査研究・専門家・指導員派遣>

#### 1. JT環境保全プロジェクト評価

- \*アフリカ評価

期 間：平成25年11月11日～11月21日

派遣国：アフリカ3カ国（タンザニア、マラウイ、ザンビア）

- \*フィリピン評価

期 間：平成 25 年 10 月 15 日～10 月 21 日

派遣者：長 宏行

内 容：

平成 25 年 10 月から 11 月にかけて、日本たばこ産業株式会社（JT）の受託により、同社の支援で、アフリカ 3 カ国（タンザニア、マラウイ、ザンビア）並びにフィリピンで進められている環境保全プロジェクトの評価を行った。評価には、長のほか、オイスカの海外ネットワークを活用し、乾燥地での農業や植林に詳しいフィリピン・アブラ農林業研修センター所長のデルフィン・テソロら 3 名も参加した。

アフリカでは、森林の劣化問題と貧困や病気等の問題が根深くつながり解決を困難にしているが、プロジェクトがこれら中核的な課題群に対して、非常に効率良く効く活動メニューを用意し、国連ミレニアム開発目標 8 つの内、5 つの課題改善に貢献していることを評価で明らかにした。フィリピンのプロジェクトでは、JT の要望により、プロジェクトに参加した個々の農家のストーリーを追ったが、参加者がそれぞれ、苦労工夫を重ねながらも、植林活動で大きな成果を残し、保全効果だけでなく、経済的なメリットを享受するとともに、彼ら自身が生きていく上での自信を身につけている実態を明らかにした。

## 2. タイ プロジェクト形成調査

期 間：平成 25 年 12 月 16 日～21 日

派遣国：タイ

派遣者：清藤城宏、廣瀬尚國

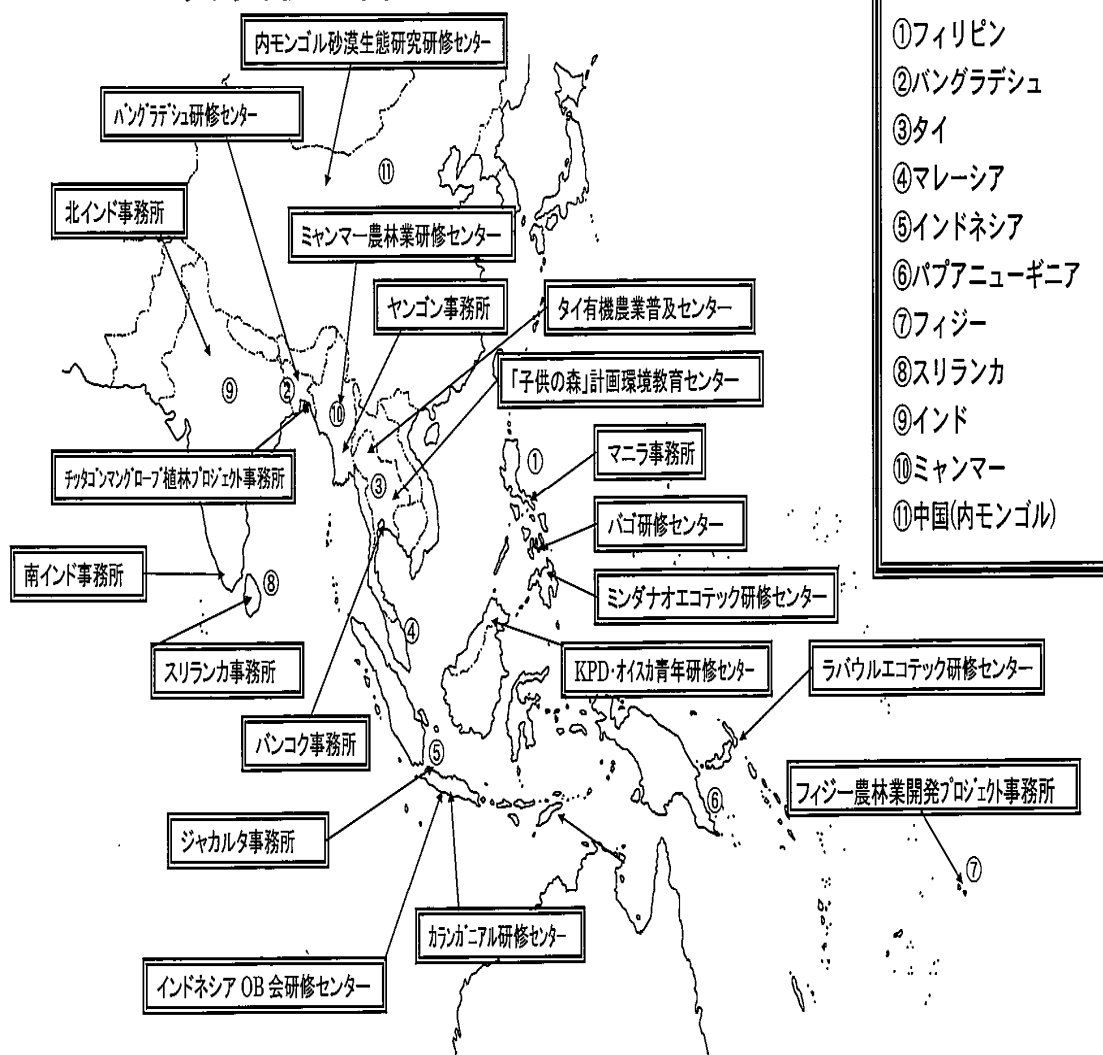
内 容：

国際緑化推進センターの林業 NGO 等支援事業の助成を受け、タイ・チェンライ県チェンコン郡において、植林プロジェクトのための形成調査を実施した。

当地で頻繁に起こる山火事等々の諸問題の解決へ向けての調査・助言のため、啓発普及部参事 清藤城宏、海外事業部 廣瀬尚國、タイ駐在代表 春日智実、および現地カウンターパート NGO であるオイスカタイランドスタッフからなる調査団を現地に派遣した。

調査では、植林地および周辺の自然条件・社会条件に関するデータ収集、住民への聞き取り調査、チェンライ天然資源環境省関連施設の訪問・聞き取り調査並びに意見交換、また過去オイスカが関わった植林地の現状等を視察、清藤氏が中心となり今後の事業について専門家の観点から様々なアドバイスを行った。全体としてオイスカタイランドがこれまでの活動によって現地、特に地元住民と良い関係を築いており、解決すべき問題は多いが、今後支援を募りプロジェクトを行っていく上での土台が確立されていることが確認できた。

資料1 海外事業拠点(事務所・研修センター)位置図



## 資料2 海外駐在員派遣リスト

	氏名	担当業務
バングラデシュ		
1	安部 雅之	農業技術指導・運営管理
2	小杉 辰雄	運営管理
インドネシア		
3	中垣 豊	農業技術指導・運営管理
4	中垣 アダ	調整・渉外
ミャンマー		
5	藤井 啓介	農業技術指導・運営管理
6	齊藤 祐子	調整・渉外
7	木附 文化	運営管理
フィリピン		
8	渡辺 重美	運営管理
9	池田 廣志	運営管理
10	村田 圭輔	調整・渉外
タイ		
11	春日 智実	運営管理
パプアニューギニア		
12	荏原 美知勝	農業技術指導・調整
フィジー		
13	ジョセリン マトゥンハイ	調整・渉外
14	ロダ ガワン	調整・渉外
15	菅原 弘誠	運営管理

資料3 海外事業拠点別 現地スタッフ及び、受入研修生数

No	国名	センター・事務所	現地スタッフ	研修生
1	バングラデシュ	バングラデシュ研修センター	12	135
2		チッタゴン・マングローブ植林プロジェクト事務所	4	-
1	インド	南インド事務所	3	-
2		北インド事務所	9	-
1	インドネシア	インドネシア OB 会研修センター (スカブミ)	60	290
2		カラングニアル研修センター	9	68
3		ジャカルタ事務所	2	-
1	マレーシア	KPD-オイスカ青年研修センター	11	30
1	ミャンマー	ミャンマー農林業研修センター	48	17
2		ヤンゴン事務所	1	-
1	フィリピン	マニラ事務所	4	-
2		バゴ研修センター	28	12
3		ヌエバビスカヤ植林プロジェクト	2	-
4		バラワン研修センター	3	-
5		ミンダナオ・エコテック研修センター	2	6
6		ダバオ研修センター	11	10
7		アブラ農林業研修センター	5	13
8		ヌエバエシハ研修センター	5	-
1	スリランカ	スリランカ事務所	6	-
1	タイ	タイ有機農業普及センター (ランブーン)	3	-
2		マングローブ・プロジェクト (ラノーン)	1	-
3		「子供の森」計画環境保護センター (スリン)	3	-
4		バンコク事務所	6	-
1	カンボジア		7	2
1	フィジー	フィジー農林業開発プロジェクト事務所	8	32
1	パプアニューギニア	ラバウル・エコテック研修センター	11	89
1	中華人民共和国	内モンゴル砂漠生態研究研修センター	7	-
合計			271	704

\*現地スタッフとは、法人の直接雇用ではなく個別プロジェクトのニーズに見合う臨時雇用者を現地採用しているスタッフ

## 2. 「子供の森」計画事業

### 1. 総括

平成 25 年度は、「子供の森」計画（以下、CFP）の事業開始 22 年目となる。各国各地ではこれまでの実践的な活動を継続的に実施するとともに、新しい参加希望の学校や地域にも対応し「子供の森」計画の活動をさらに広め、活動内容を深める一年となった。また国連や国を超えた活動や連携の拡がりをつくることができた。隣国フィジーの駐在員の働きかけとコーディネートのもと、新たに南太平洋の国・トンガ王国においても「子供の森」計画がスタートし、世界 33 の国と地域に活動の輪が広がった。

その中で平成 25 年度は特に現地よりの要望が大きく現地活動資金が不足している、バングラデシュ、カンボジア、フィジー、インド、インドネシア、ケニア、マレーシア、ミャンマー、モンゴル、フィリピン、パプアニューギニア、スリランカ、タイ、中国で重点的に事業の支援・展開を行い、各国各地域のニーズに基づき子どもたちとともに森づくり活動や環境教育活動、環境保全活動の支援を行った。

またこれらの活動国の要望を支えるために日本国内においての啓発活動や情報提供・交流活動等により日本と現地をつなぐ活動にも力を入れて実施した。

平成 25 年度（2013 年 4 月 1 日から 2014 年 3 月 31 日）の「子供の森」計画支援口数による支援（7370 口）や企業・団体・個人などからの寄附や募金やベルマークなど合わせた寄附金総額は 45,316,797 円、さらに企業及び個人からいただいたグローバル「子供の森」基金の増資額は 370,365 円となった。

### 2. 各プロジェクト実施成果

#### ① 各国で継続的に森づくりや環境教育を着実に実施。

平成 25 年 11 月にフィリピンのビサヤ地方を襲った記録的な大型台風ハイエンは、多くの人命を奪い、農地や森林、漁場などにも甚大な被害をもたらし、かつて「子供の森」計画に参加していた学校や子どもたちが育ててきた森も被害を受けた。しかし一方で、「育ててきた森や林があったからこそ陸地では暴風雨を、海岸部では暴風雨及び高波の破壊力を軽減させ、村への被害をある程度抑えることができた」という声や、「大きく育った木を柱として活用して全壊した校舎の代わりに仮校舎建設に一早く着手できた」、という災害復興への活用事例などが報告された。近年、異常気象等に起因する自然災害で学校や周辺の村が被害を受けたとの報告が多く各国から寄せられるが、今回のフィリピンの現地からの声は、地域における植林活動の促進は、洪水や土砂崩れ等の根本的な予防へとつながるほか、災害の軽減及び地域の回復力にもつながっていることがわかった。子どもたちが自然の役割を正しく認識し、植林活動や保全する活動を率先して継続実行できるよう、今後も環境教育に力を入れるとともに、その自然環境が災害に強い村づくりにつながるよう、活動を促進させたい。

#### ② 生物多様性や人との共生についての体験型学習プログラムを促進

平成 25 年 12 月、ミャンマーでは「子供の森」計画に参加しているパコック県の全 17 校から、それぞれ学校を代表して 2~3 名の子どもたち計 42 名がオイスカ・ミャンマー農業研修センターに集い、4 泊 5 日のエコキャンプを実施した。このキャンプの中では、子どもたちはセンターでの農業体験や、森の中での自然学習を通じ、普段身近にある自然と自分たちの暮らしのつながりについて学習し、また他の学校の児童生徒との交流を通じて、より広い視野を持ち、「子供の森」計画の活動への参画意欲の向上へとつながっている。このように、複数の学校の代表の子どもたちが一カ所に集い、共に学び、また議論を深めながら、集中的に自然との共生や生態系を学習するワークショップやエコキャンプは、子どもたちの学びも深く、また各学校・地域の活動の活性化にもつながることから、フィリ

ピン、タイ、インドネシア、スリランカ、フィジーなどの国々でも実施した。

また平成 21 年より国連生物多様性条約事務局と基本協約を結び参画促進協力をしている、同事務局が呼び掛ける「グリーンウェイブ」（国連生物多様性の日を中心に世界中の青少年が一斉に植林等の生物多様性を保全もしくは学習するアクションを起こす活動）には、平成 25 年度も「子供の森」計画参加校を中心に各国から積極的に参加し、オイスカ全体として 122 の学校や団体が参加し、オイスカがグリーンウェイブに参画をはじめてからの参加者累計が 20 カ国約 33,000 人となった。

### ③ 3カ国から児童生徒代表を招聘し「子ども親善大使事業」を実施。

「子供の森」計画の活動成果の広報及び子どもたちとの交流・相互理解深化のためのプログラムとして、平成 25 年 5 月 20 日～27 日はフィリピンから 4 名の児童生徒と 1 名のコーディネーター及び教員を招いて福岡県と佐賀県にて、平成 25 年 7 月 12 日～19 日はタイから 4 名の児童生徒と 1 名のコーディネーターを招いて東京都、神奈川県及び山梨県にて、平成 25 年 9 月 28 日～10 月 5 日はインドネシアから 4 名の児童生徒と 1 名のコーディネーターを招いて香川県と愛媛県にて、支援者への活動報告及び交流プログラムを実施した。

東京では本プログラムと合わせ、国連大学ビルの地球環境パートナーシッププラザにおいて写真パネル展示会及び報告会を実施し、報告会では「子供の森」計画支援企業の担当者を中心とした約 50 名に対し、平成 24 年度のタイのアユタヤ・チャイナット地方で発生した洪水被害と植林活動の関連報告等を行った。

また福岡県朝倉市においては、本プログラムと併せ「グリーンウェイブ 2013in あさくら～子ども環境フォーラム」を実施。国連生物多様性条約事務局からは上級環境担当官のニール・プラット氏も参加し講演会を行い、高校生を中心に約 900 名が集いグローバルな環境問題と各々の地域でこそ必要な環境保全活動の必要性などを確認しあった。

また各地域における交流活動では、小中学校等を訪問し双方に文化や環境に関する取り組み紹介を行い、共に学び合い、それぞれの地域における生物多様性の理解や環境に関する取り組みについて双方に理解を深めるとともに、招聘した子どもたちは、ゴミ処理など日本の先進的な環境保全技術や森林との共生手法等を学習した。

### ④ 広報・啓発活動

平成 25 年度は、広報啓発活動の強化のために、パンフレットの新規作成、現地訪問ツアーの促進、寄付手法の多様化、現地の情報提供ツールの作成に取り組んだ。

現地訪問ツアーは大手旅行会社と協働することで、全国規模での広報を行い、新しい層の新規支援者獲得を図った。また寄付手法の多様化については、従来からのベルマークやインターネット上のクリック募金等に加え、古本を通じた寄付手法の大々的な広報をスタートさせるなど、支援者の入り口の拡大に力を入れた。さらに、各国の情報をわかりやすく共有するための教材として、電子かみしばい「世界の森のおはなし」の作成にも取り組み、「子ども親善大使事業」で招聘した子どもたちの発表を元に、タイ・インドネシア・フィジーの 3 カ国の現地の活動や環境問題を物語教材として配布を開始した。

また国連等国際機関との連携を強化・深化させるため、国連関連機関の呼びかけるグリーンウェイブ活動や国際森林デーの記念行事の協働実施や同機関への情報発信を行った。

## 3. 平成 25 年度「子供の森」計画 国別植林実績

No.	活動実施国名	2013 年度		1991 年～ 累積		参加校 数総計	2013 年 新規校数
		植林本数	植林面 積 (ha)	累計本数	累計面 積 (ha)		
1	バングラデシュ	500	0.50	78,974	64.62	221	1
2	中国 (内モンゴル)	1,300	1.00	25,810	14.50	9	2
3	カンボジア	415	0.63	2,830	4.78	10	1
4	フィジー	3,340	1.30	770,942	566.60	57	2
5	インド	26,695	62.00	1,627,381	991.72	1,944	7
6	インドネシア	14,987	11.86	261,422	433.71	337	8
7	マレーシア	1,835	2.40	78,899	67.59	159	0
8	ミャンマー	1,065	0.26	26,687	12.50	67	5
9	フィリピン	40,724	8.41	2,747,349	1,040.95	1,056	9
10	パプアニューギニア	735	1.18	73,970	47.68	55	8
11	スリランカ	761	0.60	507,651	425.35	311	5
12	タイ	5,378	4.22	579,365	386.68	184	2
	*その他の国・地域	3,165	4.00	119,541	96.86	240	5
	合計	100,900	98.36	6,900,821	4,153.54	4,650	55

累計実績：33 の国と地域の 4,650 校で実施

※上記データは 2014 年 3 月末時点。

参加校数は、新規植林実績のある学校に加え「子供の森」計画に参加した学校すべての総計値

※ その他の国・地域：

日本、メキシコ、ブラジル、パラグアイ、パラオ、イスラエル、パレスチナ、アゼルバイジャン、東ティモール、ケニア、エチオピア、モンゴル、ネパール、パキスタン、ウルグアイ、ホンジュラス、台湾、アメリカ、UAE、アルゼンチン、トンガ



#### 4. 調査研究、専門家、指導員派遣

1)

期 間：平成 25 年 6 月 1 日～6 月 13 日

派遣国：アメリカ・カナダ

派遣者：高田絵美（上記期間一部）、アンジェラ・マリー・タイコ

内 容：国連経済社会理事会訪問・意見交換

オイスカ・アメリカ総局との連携のための意見交換・植樹イベント実施

国連生物多様性事務局訪問及び協働グリーンウェイブの実施

ツアー対応 等

2)

期 間：平成 25 年 8 月 24 日～9 月 3 日

派遣国：トンガ

派遣者：菅原弘誠

内 容：「子供の森」計画業務調整及び、政府関係機関等との情報交換

3)

期 間：平成 25 年 9 月 14 日～19 日

派遣国：スリランカ

派遣者：高田絵美

内 容：H. I. S. との協働ツアー対応、「子供の森」計画業務調整及び政府関係機関との意見交換

4)

期 間：平成 26 年 3 月 18 日～23 日

派遣国：インドネシア

派遣者：高田絵美

内 容：H. I. S. との協働ツアー対応、国際森林デー記念行事実施  
「子供の森」計画業務調整

### 3. 人材育成事業

オイスカの目指す国づくりの基本は「人づくり」であるという基本的考えの下、全国各地の研修現場においては、指導員並びの研修生が共に向いあい、同じ屋根の下で寝食を共にしながら研修目的達成のため真剣に取り組んだ一年であった。

外務省の NGO 事業補助金事業の一環として四国で実施した組織運営・活動能力向上研修については JA 組織など関係機関や地域の方々の協力も得て、有益な研修が実施できた。同じく四国で JICA の委託事業も実施した。農村女性の生活改善をテーマに食品衛生やマーケティング、地域活性化等について研修した。他国の情報もシェアができ、視野を広めることができた。

また、民間企業の国際貢献の一環としてスタートした株式会社三菱UFJフィナンシャルグループ（MUFG）支援による「環境保全型農業の指導者育成研修コース」については、研修期間中に企業側の関係者による研修の視察や研修生との交流を通じて、オイスカの研修や活動に理解を深めていただいた。今年度は帰国した研修生のフォローアップにも力を入れ、研修成果を支援者の皆様へ報告することができた。

#### 1) 一般研修事業

オイスカの実施する「一般研修」コースは、中部日本、西日本、四国研修センターで「農業一般」、「農業指導」コース、「家政」、「国際ボランティア」の分野に分かれて実施した。各コースの研修生は、海外でのオイスカプロジェクトのリーダーとして、または地域における農村開発のリーダーとして、活躍すべく大きな期待と責任が課せられている。

農業分野においては、有機農業技術や栽培管理技術の習得、そして土づくりを基本とした持続可能な農業形態について現場での経験を参考にしながら習得し、その経験を基にそれぞれの地域に合った農業形態を考え、それを実践していくだけの行動力や応用力を身に付けていけるようなカリキュラムで構成して実施した。また、家政の分野においては、調理実習、栄養学、洋裁、華道等の研修に加えて、各地域で展開されている特産品や加工品の開発現場を見学し、それを参考にしながら地域開発の在り方について理解を深めていく機会を設けた。限られた研修期間の中で、これらの条件を習得することは非常に困難なことではあるが、常に目的意識を持ちながら、母国における様々な問題や課題と向き合いながら研修に取り組むことで、より有意義な経験を積むことが出来るように指導に努めた。今後も海外の現場と情報を共有しながら、研修生の帰国後における活躍の舞台を一緒に築いていけるように、努力していきたい。

## 人材育成事業

### ① 研修員受入状況（国別および研修科目別）

研修科目 \ 国別	カンボジア	フィリピン	インドネシア	マレーシア	ミャンマー	パキスタン	パプア・ニューギニア	フィリピン	合計
国際ボランティア									0
農業技術	1		1	2			1	1	6
家政				1			1	2	4
農業指導 OB			1				1	2	4
合計	1	0	2	3	0	0	3	6	14

### ② 本年度研修員氏名一覧

No	氏名	国名	科目(委託先)	期間
西日本研修センター(6名)				
1	Ms. Abubo Maylyn Pascua	フィリピン	農業指導 OB	2012.4～2013.7
2	Ms. Elizebant Binti Molitin	マレーシア	家政	2012.4～2014.3
3	Mr. Muhamad Imron	インドネシア	農業指導 OB	2013.4～2014.7
4	Mr. Bendanio Sarazer Makintura	フィリピン	農業指導 OB	2013.4～2014.7
5	Mr. Josly Bin Mosigi	マレーシア	農業技術	2013.4～2014.3
6	Ms. Karekreke Charline	PNG	家政	2013.4～2015.4
中部研修センター(7名)				
7	Mr. Hansean Hubert	PNG	農業指導 OB	2012.3～2013.7
8	Ms. Matunhay Catherine Naranjo	フィリピン	家政	2012.3～2014.3
9	Mr. Oung Ngungheng	カンボジア	農業技術	2013.4～2014.3
10	Mr. Abdul Rokhman Rokhim Saleh	インドネシア	農業技術	2013.4～2014.3
11	Ms. Muhamin Azlinah	マレーシア	農業技術	2013.4～2014.3
12	Mr. Jethro Kipi	PNG	農業技術	2013.4～2014.3
13	Mr. Recentes Rhene Jarmin	フィリピン	農業技術	2013.4～2014.3
四国研修センター(1名)				
14	Ms. Solen Janice Cosme	フィリピン	家政科研修	2012.9～2014.9

③ 環境保全型有機農業指導者育成研修

環境保全型の農業を広く普及させるためには、各地域で指導にあたる人材の育成が急務となる。手始めとして持続可能な環境保全型農業を身に付け地域のリーダーとなりうる人材のキャパシティー・ビルディングを行い、国の基盤である農業を如何に持続可能なものにしていくか、農業を取り巻く環境をいかに保全していくか、今後の大きな課題となっている。本研修コースは、株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ（MUFG）の支援と協力で平成25年4月23日から平成26年3月9日までの期間、8カ国から10名の研修員を西日本研修センターで受入れた。ここでは環境保全に配慮しながら進めていく有機農業の技術など、特に土づくりを基本とした各国でも応用できる農業形態の指導をし、自国における村づくり、持続可能な農業を基本とした地域開発に貢献できる人材育成を目的として実施した。

No	氏 名	国 名
1	Ms. Chhon Srors	カンボジア
2	Ms. Tora Ane Kijiana	フィジー
3	Mr. Herman Pelani	インドネシア
4	Ms. Nurhayati	インドネシア
5	Mr. Aliron Bin Gadam	マレーシア
6	Ms. Natsagdori Bulgantsetseg	モンゴル
7	Mr. Iklik Sam Bobolo	PNG
8	Mr. Yumop Benjamin	PNG
9	Mr. Aquino Angelito Vasquez	フィリピン
10	Mr. Tenzin Rigden	インド

④ 研修員送出し機関

本年度における研修員の現地送出し機関は下記の通りである。

- |              |                                  |
|--------------|----------------------------------|
| 1. インドネシア    | オイスカ・インドネシア事務所                   |
| 2. マレーシア     | オイスカ・マレーシア総局<br>KPD／オイスカ青年研修センター |
| 3. パプアニューギニア | オイスカ・ラバウル・エコテック研修センター            |
| 4. フィリピン     | オイスカ・フィリピン マニラ事務所                |
| 5. カンボジア     | オイスカ・カンボジア総局                     |
| 6. モンゴル      | オイスカ・モンゴル総局                      |
| 7. フィジー      | オイスカ・フィジー総局                      |
| 8. インド（チベット） | ダライ・ラマ法王日本代表部事務所                 |

2) 技能実習事業

① 農業技能

オイスカの国内研修センター内で実施される研修課目以外に、外部の農家等に委託して行う技能実習を現地送出機関の強い要望により実施した。技能実習生は入国後、国内研修センターで約2カ月間の日本語・生活習慣等を身につける集団講習修了後、それぞれの委託先へ配属される。実際の現場で技術・技能を身につけることができ、研修終了後母国で即戦力の人材として期待されることが本事業の大きな特色である。本年度は沖縄県の委託事業として受け入れた技能実習生も含め合計58名が技能実習を行った。

	氏名	国名	委託先	期間
<b>耕種農業施設園芸(12名)</b>				
1	Mr. Ady Wijaya	インドネシア	佐野誠	2011.12～2014.11
2	Mr. Rian Ahmad Farhani	インドネシア	佐野誠	2011.12～2014.11
3	Mr. Dewa Putu Purna	インドネシア	仲吉 勝弘	2014.1～2017.1
4	Mr. Pengli Alimbalu	インドネシア	仲吉 勝弘	2014.1～2017.1
5	Ms. Michelle Quilaton Luntayao	フィリピン	森田農園	2010.5～2013.5
6	Ms. Alicia Marcos Dungo	フィリピン	森田農園	2010.5～2013.5
7	Mr. Trube Jeremie Ocumen	フィリピン	サザンプラント	2010.6～2013.6
8	Mr. Padpad Michel Villanueva	フィリピン	サザンプラント	2010.6～2013.6
9	Mr. Hester Vilar Tatoy	フィリピン	サザンプラント	2012.8～2015.8
10	Mr. Rudy Soliven Pagaduan	フィリピン	サザンプラント	2012.8～2015.8
11	Mr. Castillo Rowen John Magno	フィリピン	サザンプラント	2013.12～2016.12
12	Mr. Alpanta Junriks Gaviola	フィリピン	サザンプラント	2013.12～2016.12
<b>耕種農業畑作・野菜(35名)</b>				
13	Mr. Madi	インドネシア	竹田巽	2011.10～2014.10
14	Mr. Ari Baskara	インドネシア	竹田巽	2013.10～2016.10
15	Mr. Fahmy Mauludin Abdullah	インドネシア	山本園芸	2013.2～2015.2
16	Mr. Radiansyah	インドネシア	石本園芸	2013.2～2015.2
17	Mr. I Dewa Gede Wira Ekadinata	インドネシア	吉浜 清裕	2014.1～2017.1
18	Mr. I Wayan Sudanta	インドネシア	伊良部友晃	2014.1～2017.1
19	Mr. I Wayan Sugitha	インドネシア	伊良部友晃	2014.1～2017.1
20	Mr. I Made Yudiana	インドネシア	大城 清助	2014.1～2017.1
21	Mr. I Kadek Wahyu Sugiarta	インドネシア	大城 清助	2014.1～2017.1
22	Mr. Nyoman Suryana	インドネシア	神里 賢	2014.1～2017.1
23	Mr. I Wayan Putu Santika	インドネシア	金城 辰男	2014.1～2017.1
24	Mr. Ali Shofiyadi	インドネシア	金城 孝	2014.1～2017.1
25	Mr. Sandi Irawan	インドネシア	金城 敏	2014.1～2017.1
26	Mr. Yoyo Sunaryo	インドネシア	金城 直樹	2014.1～2017.1
27	Mr. Made Darmawan	インドネシア	玉城 忍	2014.1～2017.1
28	Mr. Dewa Nyoman Adi Adnyana	インドネシア	玉城 哲弘	2014.1～2017.1
29	Mr. Dian Artha Pramana	インドネシア	玉城 哲弘	2014.1～2017.1
30	Mr. I Made Suastawan	インドネシア	波平 渡	2014.1～2017.1
31	Mr. Hildie Bin Milan	マレーシア	竹内章雄	2012.5.～2015.5
32	Mr. Luther Bradley Dodoy	フィリピン	山本農場	2010.5～2013.5
33	Mr. Terredano Bendio Ternio	フィリピン	山本農場	2013.3～2016.3

34	Mr. Ellaga Richard Rave	フィリピン	沖縄ファーム	2010.6～2013.6
35	Mr. Abaricia Christian Santos	フィリピン	沖縄ファーム	2012.8～2015.8
36	Mr. Sancho Yussel Abelgas	フィリピン	沖縄ファーム	2012.10～2015.10
37	Mr. Lucena Schubert Andrada	フィリピン	當山農場	2010.6～2013.6
38	Mr. Tundan Roderick Estorninos	フィリピン	當山農場	2010.6～2013.6
39	Mr. Osorio Astley Bryan Tabigne	フィリピン	當山農場	2012.8～2015.8
40	Mr. Suerte Francisco Cabansag	フィリピン	當山農場	2013.12～2016.12
41	Mr. Jamili Larry Toleco	フィリピン	當山農場	2013.12～2016.12
42	Mr. Ursula Miljune Lizare	フィリピン	垣花 恵忠	2014.1～2017.1
43	Mr. Lozada Vexel Amar	フィリピン	金川 均	2014.1～2017.1
44	Mr. Permias Bobby Mark Duca	フィリピン	沖山 聖	2014.1～2017.1
45	Mr. Labargan Joey Cagalitan	フィリピン	吉浜 清裕	2014.1～2017.1
46	Mr. Tabobo Jose Roger Labioso	フィリピン	金城 孝	2014.1～2017.1
47	Mr. Abadilla Eligar Aboyo	フィリピン	波平 渡	2014.1～2017.1
<b>畜産農業（養鶏）3名</b>				
48	Mr. Georgilie bin Gumsimil	マレーシア	ヒグチファーム	2010.5～2013.5
49	Mr. Mayen Suyono	インドネシア	ヒグチファーム	2011.10～2014.9
50	Mr. Alfian Samuel Panambunan	インドネシア	永井養鶏園	2012.9～2015.9
<b>畜産農業（養豚）5名</b>				
51	Mr. Jerry Bin Magiling	マレーシア	トヨタファーム	2011.10～2014.10
52	Mr. David Gook	マレーシア	トヨタファーム	2011.10～2014.10
53	Mr. Echague Alvin Vincua	フィリピン	トヨタファーム	2013.4. ～2016.4
54	Mr. Vijar Jonirey Raguin	フィリピン	(有)日向養豚	2013.12～2016.12
55	Mr. Lubandina Jerome Cainoy	フィリピン	(有)日向養豚	2013.12～2016.12
<b>畜産農業（酪農）3名</b>				
56	Mr. Mario Trongco Terredano	フィリピン	岡牧場	2010.5～2013.5
57	Mr. Callena Leonardo Jr Cacho	フィリピン	岡牧場	2013.3～2016.3
58	Mr. Benny Hermanto Nadeak	インドネシア	アイ・アイ・デイ	2012.4～2015.4

【実習科目及び国別研修生数】

実習科目	国 別			合 計
	インドネシア	マレーシア	フィリピン	
耕種農業（施設園芸）	4		8	12
耕種農業（畑作・野菜）	18	1	16	35
畜産農業（養鶏）	2	1		3
畜産農業（養豚）		2	3	5
畜産農業（酪農）	1		2	3
合 計	25	4	29	58

## 人材育成事業

### ② 工業技能

開発途上国が産業発展を推し進める中で、先進諸国での当該技術の習得を希望する青年は少なくない。その一方で、日本では頒布されて久しい工業技術も途上国では依然として多くの地域で不足し必要とされている。当法人では、工業技術の領域を広げ、そうした多様なニーズに対応するため、工業分野において技能実習制度を導入している。

また実際の会社組織の一員となることで、現場社会の厳しさと責任感を身につけることができる。研修現場では評価も高く、委託企業担当者も本事業の趣旨に賛同し積極的な指導で国際協力の現場として担っていただいている。

No	氏名	国名	委託先名	期間
<b>印刷(1名)</b>				
1	Mr. Mohammad Deen	バングラデシュ	プリテック(株)	2012.6～2015.6
<b>機械加工(10名)</b>				
2	Mr. Bingcang Darwin Compania	フィリピン	(株)平井工業	2012.4～2015.4
3	Mr. Bulao Christian Rey Fernandez	フィリピン	(株)平井工業	2012.4～2015.4
4	Mr. Khairuddin bin Mohd Shah	マレーシア	(株)アレスティブ リテック	2010.6～2013.5
5	Mr. Abdul Muiz bin Mohd Rashid	マレーシア	(株)アレスティブ リテック	2010.6～2013.5
6	Mr. Muhammad Nasrul bin Lob Ahmad	マレーシア	(株)アレスティブ リテック	2010.6～2013.5
7	Mr. Muhammad Nor bin Zakaria	マレーシア	(株)大洋製作所	2011.5～2014.5
8	Mr. Norazmal bin Safingi	マレーシア	(株)大洋製作所	2011.5～2014.5
9	Mr. Muhamad Sayyidi Bin Saadun	マレーシア	(株)大洋製作所	2012.6～2015.6
10	Mr. Muhammad Asri bin Ayub	マレーシア	(株)大洋製作所	2014.1～2017.1
11	Mr. Mohd Faisal bin Ramly	マレーシア	(株)大洋製作所	2014.1～2017.1
<b>機械保全(2名)</b>				
12	Mr. Mohammad Fidaiy bin Mohid	マレーシア	(有)清明エンジニアリング	2011.5～2014.5
13	Mr. Mohamad Hafezal bin Mat Nawi	マレーシア	(有)清明エンジニアリング	2011.5～2014.5
<b>金属プレス(5名)</b>				
14	Mr. Ahmad Syahir bin Ahmad Razifuddin	マレーシア	(有) 清明電機	2010.6～2013.5
15	Mr. Mohd Firdaus bin Pahim	マレーシア	(有) 清明電機	2010.6～2013.5
16	Mr. Mohd Raduan bin Ismail	マレーシア	(有) 清明電機	2011.5～2014.5
17	Mr. Harfidzul Faidzal bin Haris	マレーシア	(有) 清明電機	2011.7～2014.5
18	Mr. Mohd Arzreen Bin Arzaman	マレーシア	(有) 清明電機	2012.6～2013.6
<b>建設機械施工(5名)</b>				
19	Mr. Muhammad Abdur Rahman bin Omar	マレーシア	中村建設(株)	2010.6～2013.5
20	Mr. Mohamad Azmeer bin Azian	マレーシア	中村建設(株)	2010.6～2013.5
21	Mr. Muhammad Yusri Bin Razali	マレーシア	中村建設(株)	2013.6～2016.6
22	Mr. Muhammad Siddiq Bin Robani	マレーシア	中村建設(株)	2013.6～2016.6
23	Mr. Muhammad Nasrullah Muhaimin Bin Kamsis	マレーシア	中村建設(株)	2013.6～2016.6
<b>塗装(6名)</b>				
24	Mr. Sato Jose Oliver Mirasol	フィリピン	(株)鈴木サービス工場	2012.4～2015.4
25	Mr. Kahawatte Pallegedara Upali Darmawardana	スリランカ	(株)鈴木サービス工場	2012.8～2015.8
26	Mr. Fairuz Hilmi bin Hamzah	マレーシア	(株)浜名ワークス	2011.5～2014.5
27	Mr. Mohd Dzulfazriee bin Mohd Daud	マレーシア	(株)浜名ワークス	2011.5～2014.5
28	Mr. Murillo Eduardo Jr. Nessia	フィリピン	(株)浜名ワークス	2012.11～2015.11
29	Mr. Guardiano Mhil Nillama	フィリピン	(株)浜名ワークス	2012.11～2015.11
<b>冷凍空気調和機器施工(2名)</b>				
30	Mr. Mohamad Syawal Bin Khalid	マレーシア	(有)清明エンジニアリング	2013.4.～2016.4

31	Mr. Kairul Azwa Bin Mohd Sidik	マレーシア	(有)清明エンジニアリング	2013. 4. ～2016. 4
<b>溶接(6名)</b>				
32	Mr. Umar Farouq bin Mohamed Tabong	マレーシア	(株)浜名ワークス	2011. 5～2014. 5
33	Mr. Mohd Buchary bin Suhaimi	マレーシア	(株)浜名ワークス	2011. 5～2014. 5
34	Mr. Mabilog Jurry Smith Digmanoy	フィリピン	(株)浜名ワークス	2012. 11～2015. 11
35	Mr. Tabligan Jerald Mansueto	フィリピン	(株)浜名ワークス	2012. 11～2015. 11
36	Mr. Aujero Aldwin Alincastre	フィリピン	(株)浜名ワークス	2012. 11～2015. 11
37	Mr. Montero Joel Napolis	フィリピン	(株)浜名ワークス	2012. 11～2015. 11
<b>鉄筋施工(4名)</b>				
38	Mr. Gallos Angelo Lozada	フィリピン	(株)セブレコン	2013. 6～2016. 6
39	Mr. Purisima Albert Millan	フィリピン	(株)セブレコン	2013. 6～2016. 6
40	Mr. Quiachon Mark Sinugbahan	フィリピン	(株)セブレコン	2013. 6～2016. 6
41	Mr. Regunton Dennis Zales	フィリピン	(有)明星工業	2014. 1～2017. 1
<b>かわらぶき(2名)</b>				
42	Mr. Syukur Andriawan	インドネシア	(有)本石産業	2014. 1～2017. 1
43	Mr. Cokro Mulyono	インドネシア	(有)本石産業	2014. 1～2017. 1
<b>左官(1名)</b>				
44	Mr. Babida Ceasar Biscarra	フィリピン	(有)明星工業	2014. 1～2017. 1
<b>めっき(2名)</b>				
45	Mr. Abdul Qaiyum Bin Ab Rahman	マレーシア	神谷理研(株)	2014. 2～2017. 2
46	Mr. Mohammad Arief Faisal Bin Najib	マレーシア	神谷理研(株)	2014. 2～2017. 2

【実習科目及び国別研修生数】

国別 実習科目	バング ラデシ ヤ	イン ドネ シア	マ レ ー シ ア	フ イ リ ピ ン	ス リ ラ ン カ	合 計
印刷	1					1
機械加工			8	2		10
機械保全			2			2
金属プレス			5			5
建設機械施工			5			5
塗装			2	3	1	6
冷凍空気調和機器施工			2			2
溶接			2	4		6
鉄筋施工				4		4
かわらぶき		2				2
左官				1		1
メッキ			2			2
合計	1	2	28	14	1	46



### 3) 外務省国際開発協力関係民間公益団体補助金による事業

開発途上国において、地球温暖化による異常気象、「食の安全」に関する問題などについて、今まで以上により身近な問題として認識が深まっている。それと同時に、オイスカが今まで進めてきた環境に配慮した持続可能な有機農業の普及、指導及び人材育成活動がますます重要性を増し、様々な国より農業分野における人材育成やプロジェクト立ち上げの要請がきている。

各国からの要望、また各農村地域からの期待に応えていくためにも、より多くの人材を招聘し、有機農業を基本とした知識の習得、指導力を身につけてもらい、幅広い見識とリーダーシップを持って指導力を発揮できることを目的に本研修を実施した。

今回は訪日研修2回目の研修生を対象とし、実践を通しながら基礎知識から応用力を身につけることができた。技術研修では各国の状況に合わせた研修をできるようにし、アクションプラン作成時にはPCM/PDMを用いて作成をした。始めに各国の状況から何が問題かを考え、改善点を考慮した自国のニーズに合ったアクションプランを作成することができた。

帰国後は所属機関等で地域の農村社会の発展のため、アクションプランを実行していく予定である。この研修を行うことにより農村での波及効果も期待されることから、本事業では国際協力・技術協力の観点において十分な成果を得られたと評価できる。

本年度は外務省国際開発協力関係民間公益団体補助制度で下記のコースに3名の研修員を平成25年7月12日から平成26年3月31日の期間受入れた。

#### 【I. 国内における国際協力関連事業 四国研修センター】

	氏 名	国 名	期 間
1	Ms. Nandre Henrica	PNG	2012.4～2014.3
2	Mr. Rifa'an	インドネシア	2012.4～2014.3
3	Ms. Mariedeth Abustan Florida	フィリピン	2013.5～2015.5

#### 研修内容

- ・有機農業（野菜・稲作）、平飼い養鶏の応用技術を習得する。
- ・流通（農業協同組合・卸売市場の見学、篤農家での研修等）を含めた日本の農業の現状を知る。
- ・余剰農産物を使用した自国のニーズに合った加工技術を習得する。また販売方法を学ぶ。
- ・食品学の知識を深めることにより調理で使用するときの食材の調理方法、保存方法の技術を習得する。
- ・実用的な栄養の基礎を習得することにより、自国の健康状態にあった調理方法を習得する。
- ・生活環境に身近な環境問題を理解し、具体的な活動の実施を通じて、自国への適用可能な手段を身につける。

#### 4) 独立行政法人 国際協力機構（JICA）受託研修事業

独立行政法人国際協力機構より研修員受託事業を実施した。四国研修センターでは、「農村における女性の能力促進のため農産物加工品の開発及びマーケティングコース」の短期研修を実施した。

JICAとの緊密な連携により当初計画の通り研修業務が実施された。定期的に研修員と指導員による研修報告会等を開催し、理解度の確認、研修カリキュラム等の改善も行い当初の到達目標に達成することができた。研修修了時には技術討論会を開催し、帰国後の具体的な計画を立て地域社会での活動に結び付けていくため、研修員の総括評価として現地で有効な技術を取入れた技術レポート（アクションプラン）を作成した。研修員の今後の活躍に期待したい。

- 1) 平成 25 年度(地域別研修) 「アフリカ地域 農村女性の生活改善のための農産物加工品の開発及びマーケティング/TICAD IV フォローアップ」

- (1) 研修期間：平成 25 年 9 月 2 日～平成 25 年 10 月 9 日  
 (2) 研修場所：公益財団法人オイスカ 四国研修センター  
 (3) 研修員名

No.	Name	国籍
1	Mr. MODISE Mothusi Calvin	ボツワナ
2	Mr. OUEDRAOGO Moumouni	ブルキナファソ
3	Ms. ANDREAS-NDJARAKANA Itah Kouiho	ナミビア
4	Ms. FIGERETU Ernestine Elsie Kasiku	ナミビア
5	Ms. SHERO Halimat Yanki	ナイジェリア
6	Ms. MOHAMMED Ramata Bimbola	ナイジェリア
7	Ms. ADAJI Mary	ナイジェリア
8	Ms. IDRIS ABDALLA Basamat Osman	スーダン
9	Mr. DLAMINI Sifiso Aubrey	スワジランド

#### (4) 研修内容

- ① 生活改善と女性の役割
- ② 農産物加工・パッケージング技術
- ③ プロジェクトマネジメント
- ④ 農村活性化
- ⑤ アクションプラン作成

### 5) マラ公団受託事業

マレーシア政府系機関マラ公団による要請で受託事業を実施した。四国研修センター及び西日本研修センターにおいて、ホームステイプログラムを実施。昨年より開始したこの取り組みは、日本語や文化、規律等を学ぶとともに有機農業などセンターでの活動も盛り込まれ充実した内容となった。

また、同公団の専門分野の職員に対し、現場体験と知識向上を目的として小売業、建設業及び原子力工学分野の現場研修を実施した。同国では、人材育成事業へのニーズが年々高まっており、当法人のネットワークを最大限利用したプログラムに期待が寄せられている。これまでの研修実績を活用し、同国の発展に寄与すると同時により強固な関係構築を目指す。

#### 1) 平成 25 年度 マラ・ジュニア・サイエンスカレッジ

ホームステイ・リーダーシッププログラム

- (1) 実施期間：平成 25 年 5 月 28 日～6 月 5 日
- (2) 実施場所：公益財団法人オイスカ 四国研修センター
- (3) 学生数（引率教員含む）：24 名（男性 11 名、女性 13 名）

#### 2) 平成 25 年度 マレーシア Malaysia Japan Industrial Institute

(MJII) ホームステイプログラム

- (1) 実施期間：平成 25 年 12 月 16 日～12 月 26 日
- (2) 実施場所：公益財団法人オイスカ 西日本研修センター
- (3) 学生数（引率教員含む）：14 名（男性 9 名、女性 5 名）

#### 3) 平成 25 年度 マラ公団職員日本語・原子力研修

- (1) 研修期間：平成 25 年 11 月 18 日～平成 26 年 1 月 11 日
- (2) 研修場所：公益財団法人オイスカ 中部日本研修センター、東京都市大学原子力研究所
- (3) 研修生数：4 名（男性）

	氏 名
1	Mr. Mohd Izam Bin Abd Jalil
2	Mr. Dahia Bin Andud
3	Mr. Sallehuddin Bin Bachok @ Tunderang
4	Mr. Mohd Sabri Bin Salleh

4) 平成 25 年度 マラ公団職員日本語・企業研修

- (1) 研修期間：平成 25 年 11 月 18 日～平成 26 年 2 月 7 日
- (2) 研修場所：公益財団法人オイスカ 中部日本研修センター、株式会社やまのぶ
- (3) 研修生数：2 名（男性 1 名、女性 1 名）

	氏 名
1	Mr. Fadzil Nor Bin Samiran
2	Ms. Siti Rosezaimah Binti Ismail

5) 平成 25 年度 マラ公団職員日本語・企業研修

- (1) 研修期間：平成 25 年 11 月 18 日～平成 26 年 2 月 7 日
- (2) 研修場所：公益財団法人オイスカ 中部日本研修センター、株式会社太啓建設
- (3) 研修生数：2 名（男性）

	氏 名
1	Mr. Mohd Norddin Bin Zakaria
2	Mr. Yusrizan Bin Mohamed

6) 日本青年育成事業

当法人は長年、人材育成を通じて国づくりの基盤である開発途上国における農村地域の発展に寄与している。しかし近年は、わが国の産業構造の変化に伴い、農業分野での若手人材が大きく減少しており、国際協力の分野で活躍が期待できる人材の確保が著しく困難な状況となっている。そうした中、将来これらの分野で仕事を目指そうとするわが国の青年の育成は緊急の課題である。

本事業は、国内外で推進する国際協力活動、及び関連業務（活動）を 1 年間の体験を通じて理解を深め、将来にわたって当法人を含むわが国 NGO、さらには広く国際貢献を担う人材の養成を行った。

- 1) 対象者：4 名（男性 2 名、女性 2 名）
- 2) 研修期間：平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日
- 3) 名簿

氏 名	性別	研修場所
木村 肇	男	東京本部、西日本研修センター、インドネシア・スカブミ研修センター
小磯 雅章	男	東京本部、中部研修センター、フィリピン・アブラ研修センター
諸江 葉月	女	東京本部、四国研修センター、インドネシア・スカブミ研修センター
山田 理絵	女	中部研修センター

※なお、木村 肇については 6 月 1 日から 3 月 31 日まで、平成 25 年度外務省主催 NGO インターン・プログラムの助成事業を受けて人材育成を行った。



## 4. 啓発普及事業

### 総括

人類が世界共通に抱える、自然環境破壊、地域間格差、青少年の健全育成などの課題解決に向けて、森林保全等の実践的な取り組みを含め講演会・セミナー等の開催、森のつみ木広場、海外ボランティア派遣といった多岐にわたる活動に、日本国内における一般国民および民間企業等の参画を呼び掛け、各地で活発な活動を展開した。

この活動は、全国各地にある14の支部と46のオイスカ活動の促進を主な目的とする支援団体、および国内3か所の研修センターが中心となって行っている。こうした拠点は国際協力やグローバルな課題を、広く一般市民に知っていただき、行動につなげていくという重要な役割を果たしている。この方式はオイスカが1961年に設立した当初からの変わらない点であり、オイスカが他の国際協力NGO/NPOと大きく異なる強みである。

その支部に所属する会員は、4,385件（個人会員2,872件、法人会員1,513件）である。しかしながら、ここ数年オイスカ会員や寄付金が毎年継続的に減少しており、オイスカ活動の促進に影響を及ぼしている。こうした状況を打破するべく、地元に着した活動と連動させながら会員増強へと工夫している支部が出てきており、他の支部への良い影響を与えている。今後はその動きが全国的なものになるよう仕向けていきたい。

東日本大震災の被害を受けてスタートした海岸林再生プロジェクトでは植栽用の苗木生産と並行して、関係機関との協議を堅実に進めてきており、地元の宮城県のみならず、全国的にも注目をあびる事業として認識されてきた。全国の多くの個人および民間企業等の協力を得て、平成25年には約9千万円の寄付を集めることができたが、平成26年度から本格化していく植栽作業に向けて、より広く寄付金を集めていきたい。

昨今、単発の植栽活動を行ったり、イベント的に森林整備を促進したりする行政、NPOなどの団体は増加してきたが、オイスカは長年の経験を経てそうした団体とは一線を画し、より長期的な自然環境を考えた森林整備活動を提案してきた。その結果、その趣旨に賛同して頂く企業は植栽活動のみならず、管理作業、地域の活性化までを視野に入れた活動を展開しており、オイスカの「ふるさとづくり」を進める良きパートナーとなっている。

森のつみ木広場では子どもたちに森林保全の大切さを知ってもらう場の提供、また国産材の利用促進を目的として、全国的に開催が定着してきた。さらに新しい取り組みとして、乳幼児が木と触れ合う「赤ちゃん木育広場」を開始した。こうした取り組みは、子どもや乳幼児への環境教育もさることながら、父母の方などに国内の森林の状況を認識して頂く良い機会となっている。

国内外の地域にある課題を解決していくことがオイスカのすすめる「ふるさとづくり」につながる。オイスカの特徴である、地域の関係者と連携をとりながら長期的に課題を解決していくことが今後も求められている。

1. 国内事業

1) 講演会・セミナー等の開催

組織名	事業名	期日	参加者数	場所
本部	企画展「LOVE 故郷～日本と世界で育むふるさと～」	7月3～20日	多数	地球環境パートナーシッププラザ
本部	シンポジウム「自治体と作る新しいソーシャルビジネスのカタチ」	10月25日	54名	イトーキ東京イノベーションセンター-SYNQA
本部	経済同友会海岸林視察	3月11日	65名	宮城県名取市
本部/ 北海道支部	「学校林・遊々の森」全国子どもサミット in 北海道	8月6～7日	180名	北海道札幌市
宮城県支部	海彦・山彦 わんぱくキャンプ in 松島 2013	8月9～11日	9名	宮城県松島町
オイスカ中部日本研修センター	第97期国際青年養成講座	4月4～9日	22名	オイスカ中部日本研修センター
愛知県支部	2013 国際交流フェスティバル	9月28日	600名	愛知県碧南市
オイスカ中部日本後援会	国内外・海岸林再生プロジェクト活動報告会	12月3日	60名	名古屋市東桜会館
中部日本研修センター	中国内モンゴル 砂漠化防止講演会	11月15日	105名	中部日本研修センター
岐阜県支部	東日本大震災復興支援チャリティー国際交流会	11月16日	30名	市橋コミュニティセンター
四国支部	四国支部創立 20 周年記念式典・記念講演	4月25日	180名	オークラホテル丸亀
	四国のつどい	10月3日	700名	ホテル・パールガーデン
愛媛県支部	坂崎幸之助の～With A Little Help From My Friends	2月11日	500名	聖カタリナ大学
	愛媛の集い（愛媛県支部創立30周年記念イベント）	2月12日	名	道後山の手ホテル
広島県支部	第3回広島県支部の集い「タイムグラバあちゃん」上映会、澄川嘉彦監督 講演会	5月29日	200名	広島国際会議場
岡山推進協議会	国際貢献協力セミナー	10月20日	50名	岡山国際交流センター

西日本支部	脇山校区・オイスカサマーナイトフェスティバル	7月27日	1,000名	オイスカ西日本研修センター
熊本推進協議会	10周年記念行事	10月11日	200名	熊本市交通センターホテル

## 2) 資料の作成・配布、インターネットでの情報配信

### ①月刊「OISCA」発行

年間11回発行(毎月約6400部に加え8-9月の合併号は10,000部。年間合計約75,000部)し、会員のほか、公官庁や各種団体など約300カ所に送付。

今年度は特に農業を意識した編集にし、600号記念となった4月号では東京農業大学名誉教授の進士五十八氏と中野良子会長の対談を企画し、オイスカの基本理念を掘り下げた。

また毎月さまざまなトピックを紹介するページでは、会員や支援者などのコメントを積極的に紹介するよう心掛けた。

### ②ウェブサイトでの情報発信

月刊誌で取り上げたニュースを最新情報として配信したほか、全国のイベント・ボランティア情報の告知を行った。また、業務日にはスタッフが交替でブログを更新し、日々の活動をさまざまな部署のスタッフがそれぞれの目線で発信し、フェイスブックでも情報の拡散に努めた。また、イベント・ボランティア情報については、外部の情報サイトでも情報を発信。主なサイトは下記の通り。

\*JICA 国際協力 キャリア総合情報サイト

「PARTNER」 <http://partner.jica.go.jp/>

\*地球環境パートナーシッププラザ 環境情報サイト

「環境らしんばん」 <http://www.geoc.jp/rashinban/>

\*ユナイテッドピープル

「イーココロ！」 <http://ekokoro.jp/>

### ③メールマガジンの発行

毎月第2・4金曜日に各種募集情報を中心とした最新情報を掲載したメールマガジンを配信(定期配信のほかテレビ放映のお知らせなど号外を2回配信)。

配信方法および読者数は下記の通り。

\*まぐまぐ 990名

\*メルマ 460名

\*メール 380名

メールマガジンを開始した2006年当時に利用を始めた無料メルマガ配信サービスを2つ利用しているが、メルマでの登録者数は変化がないのに対し、まぐまぐ登録者はこの1年で30名ほどが配信停止の手続きを取っている。まぐまぐでの登録者への迷惑メール増加が一要因と考えられる。読者を増やすための働きかけがなされていないことと、一方的な発信が多い現在の内容については改善の余地がある。



④プレスリリースの配信

国内最大のリリース配信サービス企業であるPR TIMESを無料で活用できるため、各種イベントなどの告知を中心に情報を配信。今後は告知にとどまらず、プロジェクトを実施する国の最新情報などオイスカだからこそ入手できる情報とともに活動の進捗などを配信できるようにする必要 がある。

⑤Links for goodによる広告配信

yahooが社会貢献活動として立ち上げたLinks for goodの広告を2013年12月より無料で配信できることになり(ただし月10万円分まで)緊急支援募金の呼び掛けやイベントの告知などの広告を配信。

3) 森林整備活動

国内の森林面積の4割を超える人工林は、管理作業が十分に行われず荒廃が進んでいる。オイスカでは全国の支部や推進協議会が地元のNPOや行政、企業等と協働してこうした森林の整備・保全活動に取り組み、枝打ちや間伐といった整備作業を実施するほか、林業を支えるために間伐材の利用を促進している。

① 企業等との協働による森林保全活動

平成19年より23の企業・団体・行政と共に取り組んでいる「富士山の森づくり」は、シラベ人工林において害虫被害対策のため皆伐、または列状間伐された対象地に広葉樹を植栽し、自然に近い植生に再生する活動であるが、日本の象徴でもある富士山の景観を再生する活動でもある。平成25年度は世界文化遺産に登録された富士山において、当活動地は「顕著な普遍的価値を有する区域」として指定されており、その意味でも保全活動の意義は大きい。

同様に、全国で展開する活動においては、森林を再生・保全する意義のみならず、森林と人との関わりを見直し、再構築する意義も兼ね備えた活動として取組みを進めている。

事業名	実施月	活動内容	活動場所
富士山の森づくり	5～9月	獣害防止ネットの設置	山梨県鳴沢村
	6月	子どもたちへの環境教育	〃
甲州市・オルビスの森づくり	4月	植栽・獣害防止ネット張り	山梨県甲州市
ホンダの森づくり(小菅)	5、9月	獣害防止ネットの設置	山梨県小菅村
ホンダの森づくり(寄居)	4、9月	下草刈り・蔓切り 植栽・獣害防止ネット張り	埼玉県寄居町
ライオン山梨の森づくり	4、5、8、10月	植栽、獣害防止ネット張り 下草刈り、枝打ち、間伐	山梨県山梨市
サミットの森	11月	除伐、枝打ち、間伐	山梨県丹波山村
東急ホテルズの森	4月、9月	生育調査、除草	山梨県丹波山村

クレオの森	8月	下草刈り	山梨県小菅村
東電環境エンジニアリングの森	5～3月	下草刈り	埼玉県毛呂山町
プロネクサスの森	8月、12月	間伐	山梨県道志村

## ②全国各組織の環境保全活動

組織名	事業名	期日	参加者数	場所
北海道支部	世界の「子供の森」計画	5月18日	65名	北海道恵庭市
茨城推進協議会	里山保全活動	年間を通じて	80名	茨城県常陸大宮市
首都圏支部	「夕やけ小やけふれあいの里」森林整備活動	年2回	5名	八王子市上恩方町
	「富士山の森づくり」森林整備活動	6月8日	12名	山梨県鳴沢村
	「海の森」植樹活動	11月17日 3月29日	60名 24名	東京都江東区青海二丁目地先
	「ゴミ0の日」ボランティア清掃活動	5月25日	10名	築地市場
山梨県支部	オギノの森(下草刈り)	5月30日	約100名	甲府市
	オイスカの森	6月24日	約20名	丹波山村
	オイスカの森 丹波山崩壊地整備事業(下草刈り)	9月16日 7、8月	約20名 約10名	
	「富士山の森づくり」森林整備活動	9月1日	185名	鳴沢村
静岡県支部(首都圏支部)	放置竹林里山整備	10か月 (4月6日のみ 首都圏参加)	計670名	静岡市清水区 大内地区
岐阜県支部	ぎふ清流国体記念植樹	9月18日	30名	
坂出推進協議会	第4回「尾の瀬山・オイスカ憩いの森」植林	11月		まんのう町尾の瀬山

## 4) 各種体験活動

## ①森のつみ木広場

平成17年よりスタートした「森のつみ木広場」は、子どもたちにつみ木遊びを通して、森や自然を身近に感じてもらい、森林保全の大切さを知ってもらう場の提供、また国産材の利用促進を目的として日本各地の支部や推進協議会で開催され、定着してきている。

平成25年度からは昨年度に作成した紙芝居が活用されることにより、ボランティアの参加も増え、保育園児などの小さな子どもたちにも日本や世界の森のかかえる問題や、自然の大切さをより理解して貰えるような活動になってきている。

四国では例年継続開催されている「インストラクター養成講座」が広がりを見せ、座学だけでなく森林整備などの体験の場を同時に提供することで、より深い理解を得ながら活動を展開している。今後はより活動を推進するために養成講座の開催など、全国での人材育成に重きを

おいていきたい。

組織名	開催日	開催場所・イベント名 等
本部	2013年5月12日	残堀川ふれあいイベント（東京都瑞穂町）
	2013年6月2日	『荻窪ハーモニーまつり』 あんさんぶる荻窪（東京都杉並区）
	2013年8月6日	青少年のための科学の祭典（学芸大）
	2013年9月24日	中央幼稚園（東京都中央区）
	2013年10月30日	甲運小学校（山梨県甲府市）
	2013年12月14日	花笠まつり（東京都杉並区）
	2013年7月6日、20日	地球環境パートナーシッププラザ（東京都渋谷区）
	2013年12月12日-13日	第15回 エコプロダクツ展2014（東京都江東区）
北海道支部	2013年7月2日-3日	東区栄町小学校（北海道札幌市）
	2013年7月25日	『星園子ども広場』市民活動 プラザ星園（北海道札幌市）
	2013年9月21日	『えこりん村祭り』（北海道恵庭市）
	2013年10月12日	『島松コミュニティースクール』（北海道恵庭市）
	2014年2月13日	はらっぱ保育園（北海道札幌市）
	2014年3月23日	第4回 もみじ台ふれあい祭り（北海道札幌市）
宮城県支部	2013年5月22日-29日	仙台縁日（宮城県仙台市）
	2013年5月31日	『みちのくグリーンサム物語』 国営みちのく杜の湖畔公園（宮城県川崎町）
	2013年7月11日	山元町中央公民館（宮城県山元町）
	2013年10月14日	おらがまち 子どもアートフェスティバル（宮城県仙台市）
山梨県支部	2013年4月22日	竜王中央保育園（山梨県甲斐市）
	2013年5月29日	山宮保育園（山梨県甲府市）
	2013年6月24日	双葉西保育園（山梨県甲斐市）
	2013年9月17日	松島保育園（山梨県甲府市）
	2013年10月20日	甲斐市わくわくフェスタ（山梨県甲斐市）
	2013年11月19日	敷島ふれあい中央児童館（山梨県甲斐市）
	2013年12月16日	敷島保育園（山梨県甲斐市）
	2014年1月27日	池田幼稚園（山梨県甲府市）
	2014年3月24日	竜王ふれあい館（山梨県甲斐市）
静岡県支部	2013年5月25日	長田児童館（静岡県静岡市）
	2013年6月12日	田町小学校（静岡県静岡市）
	2013年6月19日	美和小学校（静岡県静岡市）
	2013年6月22日	オイスカ高等学校『めひるぎ祭』（静岡県浜松市）
	2013年6月29日	服織西小学校（静岡県静岡市）
	2013年7月11日	清水飯田小学校（静岡県静岡市）
	2013年7月20日	函南町中央公民館（静岡県函南町）
	2013年7月27日	安東児童館（静岡県静岡市）
	2013年8月3日	服織児童館（静岡県静岡市）
	2013年8月31日	美和児童館（静岡県静岡市）
	2013年9月10日	安西小学校（静岡県静岡市）
	2013年9月18日	清水不二見小学校（静岡県静岡市）

	2013年9月27日	蒲原西小学校（静岡県静岡市）
	2013年10月9日	葵小学校（静岡県静岡市）
	2013年10月16日	清水小学校（静岡県静岡市）
	2013年10月27日	函南町記念行事（静岡県函南町）
	2013年11月7日	大谷小学校（静岡県静岡市）
	2013年11月19日	久能小学校（静岡県静岡市）
	2013年11月28日	森下小学校（静岡県静岡市）
	2014年2月16日	第4回 はままつグローバルフェア（静岡県浜松市）
愛知県支部	2013年10月6日	『わくわくワールド』トヨタスポーツセンター（愛知県豊田市）
	2013年10月29日	高雄西保育園（愛知県扶桑町）
	2013年11月3日	『川越町ふれあい祭り』川越町福祉会館（三重県川越町）
	2013年11月15日	久居中学校（三重県津市）
	2013年11月26日	柏森南保育園（愛知県扶桑町）
	2014年1月22日	おひ様児童館（三重県朝日町）
	2014年1月30日	川越幼稚園（三重県川越町）
	2014年2月7日	江南小鹿保育園（愛知県江南市）
	2014年2月18日	扶桑幼稚園（愛知県扶桑町）
長野県支部	2013年4月30日	柏木保育園（松本市）
	2013年5月15日	新村保育園（松本市）
	2013年6月5日	今井保育園（松本市）
	2013年6月12日	島立児童センター（松本市）
	2013年8月4日	オイスカ子供の森体験（佐久市）
	2013年9月28-29日	市民活動フェスタ2013「ぼくらの学校」（松本市）
	2013年10月3日	筑摩児童センター（松本市）
	2013年10月29日	岡田保育園（松本市）
	2013年11月15日	錦部保育園（松本市）
	2013年11月25日	柏木保育園（松本市）
	2013年12月6日	新村保育園（松本市）
	2013年12月18日	今井保育園（松本市）
	2014年2月10日	錦部保育園（松本市）
	2014年2月12日	高宮児童センター（松本市）
	2014年2月24日	岡田保育園（松本市）
岐阜県支部	2013年7月28日	大垣子育て支援センター（岐阜県大垣市）
	2013年8月24日	土田公民館（岐阜県可児市）
	2013年10月19日	下恵土公民館（岐阜県可児市）
	2014年2月23日	可児市環境フェスタ（岐阜県可児市）
富山県支部	2013年8月24日	立山山麓 音楽祭 2013（富山県立山町）
	2013年9月7日	『ミラージュホール こどもの国』新川文化ホール（富山県魚津市）
	2013年10月19日-20日	『とやま環境フェア 2013』富山市南総合公園 体育文化センター（富山県富山市）
	2013年10月27日	とうぶふれあいフェスタ 2013（富山県富山市）
関西支部	2013年4月28日	平林フォーラム（大阪府大阪市）
	2013年5月26日	玉出小学校はぐくみネット（大阪府大阪市）

	2013年6月25日	今宮小学校生き生き学習（大阪府大阪市）
	2013年10月19日	サンケイホールブリーゼ「木材・林業フェア」（大阪府大阪市）
	2013年10月28日	東都島小学校（大阪府大阪市）
	2013年11月2日	万博公園「エコフェスタ in Expo Park」（大阪府吹田市）
	2013年11月2日	「なかなかの森」（大阪府枚方市）
	2013年11月26日	中津小学校（大阪府大阪市）
	2013年11月29日	瓜破東小学校（大阪府大阪市）
	2014年1月10日	九条幼稚園（大阪府大阪市）
	2014年1月22日	日東小学校（大阪府大阪市）
	2014年1月28日	玉造小学校（大阪府大阪市）
	2014年2月5日	大阪教育大学附属平野小学校（大阪府大阪市）
	2014年2月21日	滝川幼稚園（大阪府大阪市）
	2014年3月20日	新高幼稚園（大阪府大阪市）
四国支部	2013年7月13日	牟礼南小学校（香川県高松市）
	2013年7月23日	高松市中央小学校（香川県高松市）
	2013年8月21日	鬼無児童クラブ（香川県高松市）
	2013年8月23日	夏休み親子ふれあい木工教室（高知県高知市）
	2013年9月29日	オイスカふるさと祭り（オイスカ四国研修センター）
	2013年10月12日	高松大学（香川県高松市）
	2014年2月21日	平和保育園（東かがわ市）
	2014年2月22日	高松保育園（香川県高松市）
愛媛県支部	2014年3月20日	高松大学東幼稚園（香川県高松市）
広島県支部	2013年10月21日	からたち幼稚園（愛媛県松山市）
	2013年6月2日	『ひろしま「山の日」県民の集い』/ 県立もみのき森林公園（広島県廿日市）
	2013年9月14日 2014年2月22日	牛田総合公園（広島県広島市）
西日本支部	2014年2月22日	牛田総合公園（広島県広島市）
	2013年6月9日	芦刈小学校（佐賀県小城市）
	2013年7月21日	赤坂公民館（福岡県福岡市）
	2013年7月31日	簗子公民館（福岡県福岡市）
	2013年7月31日	警固小学校（福岡県福岡市）
	2013年8月3日	戸切街づくり館（福岡県福岡市）
	2013年8月5日	照葉小学校（福岡県福岡市）
	2013年8月6日	西花畑小学校（福岡県福岡市）
	2013年8月7日	板付小学校（福岡県福岡市）
	2013年8月7日	西高宮小学校（福岡県福岡市）
	2013年8月19日	七隈小学校（福岡県福岡市）
	2013年8月20日	今宿小学校（福岡県福岡市）
	2013年8月20日	小笹小学校（福岡県福岡市）
	2013年8月21日	名島小学校（福岡県福岡市）
	2013年8月22日	玉川小学校（福岡県福岡市）
2013年8月22日	那珂南小学校（福岡県福岡市）	

## ②海外ボランティア派遣

グループ名	期間	人数	訪問先
北海道支部	2014年2月17～24日	15名	タイ・スリン
本部（全国各支部）	5月8～12日	82名	オイスカ中華民国総会創立40周年記念式典 台湾
本部	9月13～16日	53名	ビジネスフォーラム in マレーシア（クアラルンプール）
本部	9月17～20日	15名	青年フォーラム in マレーシア（マラッカ）
山梨県支部	8月18日～23日	20名	フィリピン・ヌエバビスカヤ州
静岡県支部	5月8～14日	13名	モンゴル・ドルノゴビ県
愛知県支部（豊安工業株式会社）	9月7～12日	6名	タイ・スリン県
愛知県支部（高浜ロータリークラブ）	11月7～10日	10名	タイ・（アユタヤ）
長野県支部	11月5～6日	22名	フィリピン・ネグロス島
長野県支部（ミャンマー会）	2014年3/16～22日	17名	ミャンマー・パコック地区
豊田推進協議会	11月11～15日	10名	マレーシア
富山県支部	7月21～27日	31名	ミャンマー・パコック/パガン/ヤンゴン
関西研修センター	7月27日～8月3日	11名	フィリピン・アブラ州
綾川推進協議会	12月4～10日	10名	ミャンマー
西日本支部（「子供の森」ワークキャンプ）	8月16～20日	12名	タイ・ラノーン県
西日本支部（ラブ・グリーンの会）	8月16～21日	21名	タイ・ラノーン県
西日本支部（佐賀ラブグリーンの翼）	8月17～21日	14名	ミャンマー・パコック地区
西日本支部（九州電力総連）	11月18～22日	5名	フィリピン・ネグロス島
住友化学株式会社	11月23～28日	25名	タイ・ラノーン
UAゼンセン	5月25日～6月1日、 6月8～15日（各回15名ずつ）	30名	バングラデシュ

## ③その他体験活動（研修生との交流会など）

組織名	事業名	期日	参加者数	場所
北海道支部	第13回チャリティーディナーコンサート	12月5日	180名	京王プラザホテル
神奈川推進協議会	里山・里海フェスティバル	2014年3月29日、 30日	多数	パシフィコ横浜

オイスカ首都圏支部 オイスカ築地推進協議会	第23回みどりの感謝祭 「みどりとふれあうフェスティバル」 ブース出展	5月11日、12日	多数	日比谷公園
オイスカ首都圏支部	チャリティーバザー	4月20日	多数	オイスカ本部駐車場
	海岸林再生プロジェクト視察ツアー	6月14日、15日	10名	宮城県・名取市
	夏祭り	7月27日	多数	オイスカ本部駐車場
	チャリティーバザー (新都心LC)	3月11日	多数	新宿中央公園
岐阜県支部	東日本大震災復興支援 チャリティー国際交流会	11月16日	30名	岐阜市・市橋コミュニティセンター
四国研修センター	海岸林再生プロジェクト報告会と地元住民との交流会	11月10日	14名	宮城県・名取市
	オイスカ海外研修生修了式			四国研修センター
四国支部	MARA ジュニアサイエンスカレッジ高校生一行歓送会	5月28日、6月4日	100名	四国研修センター
	瀬戸内国際芸術祭・夏 (バングラデシュ芸術家一行歓迎会)	7月24日	180名	四国研修センター
	子供の森」計画 子ども親善大使歓迎会 (インドネシア)	10月4日	30名	四国研修センター
	チャリティーゴルフコンペ	3月28日	149名	坂出カントリークラブ
オイスカ朝倉推進協議会	朝倉市産業視察	9月13日、14日	38名	朝倉市、うきは市
	イエローレシートキャンペーン	12月11日	多数	ジャスコ甘木店
西日本研修センター・ 西日本支部	オイスカ海外研修生入所式	5月12日	120名	西日本研修センター
	第4回収穫感謝祭・秋	11月9日	800名	西日本研修センター
	MUFG従業員体験交流プログラム	12月7日	74名	西日本研修センター
	オイスカ海外研修生修了式	2月23日	150名	西日本研修センター

## ④赤ちゃん木育広場

平成 25 年度より、乳幼児に木と触れ合う原体験を創出する「赤ちゃん木育広場」普及事業を開始した。国産材を活用した木製おもちゃで乳幼児が遊ぶ広場を開催し、併せて保護者に対して国産材利用の意義を啓発する。平成 25 年度はサミット（株）の支援を受けて杉並区内の 20 団体・個人に同広場を開催するための「赤ちゃん木育広場セット」を寄贈し、その活用のための研修会を実施した。その結果、計 112 回の「赤ちゃん木育広場」が開催され、延べ 2,896 名の親子が参加し、国産材利用の意義を説明するパンフレットが計 645 冊配布された。また、高松市において「木育リーダー養成講座」を開催し、地域において「赤ちゃん木育広場」を開催する人材の育成に取り組んでいる。

## 5) 東日本大震災復興支援事業

## ①東日本大震災長期復興支援 「海岸林再生プロジェクト 10 ヶ年計画」

2011 年 3 月 11 日の東日本大震災で壊滅的被害を被った名取市の海岸林の復興を行うため、名取市海岸林再生の会と連携して協力して取り組んでいる。具体的には、復興再生の必要な名取市の海岸林約 100 h a の植林、必要な苗木の提供、植林、下刈り等保育までを行う計画。平成 24 年から 10 ヶ年の計画で、「名取市民の森」として再生させるべく、被災農家の雇用と生計支援を伴う形で育苗を行う形で、プロジェクトを実施している。

今年度の主な実施内容：

(1) 畑の確保・防風柵の施設のから開始し、活動の拠点となる事務所・休憩所・物品庫の設置

(2) 灌水に必要な地下水をくみ上げる井戸掘り (8 か所) (内 6 か所は塩分濃度が高く、2 か所がぎりぎりの濃度 EC1.2 で利用している。)

(3) 土壌調査 (カリ分が異常に高い値が出て、堆肥・肥料散布を工夫し、播種床づくりを実施)

## (4) クロマツ種子の播種量

抵抗性クロマツ	0.5 kg (22,500 粒)	コンテナ播種
普通クロマツ	1.0 kg (50,000 粒)	
計	1.5 kg (72,500 粒)	発芽率 90%

## (5) 床替え

抵抗性クロマツ	20,000 本
普通クロマツ	70,000 本
計	90,000 本

(6) 総雇用者数 592 人



(7) 2014年2月13日、宮城県、名取市、名取市海岸林再生の会、オイスカは、名取市内の海岸林再生に向けて、4者で協定を締結した。

【協定締結の内容】

1. 協定締結者 宮城県、名取市、名取市海岸林再生の会、(公財)オイスカ
2. 協定締結日 平成26年2月13日
3. 協定期間 平成26年2月13日～平成31年3月31日
4. 活動場所 名取市下増田字屋敷地内ほか
5. 活動面積 89.98ha(県有林および名取市有林内)
6. 名称 「名取市民の森」

(8) 2014年2月28日、名取市内の海岸林再生に向けて国と協定を締結した。

【協定締結の内容】

1. 協定締結者 林野庁東北森林管理局、公益財団法人オイスカ
2. 協定締結日 平成26年2月28日
3. 協定期間 平成26年2月28日～平成28年3月31日(第1期)
4. 対象 名取市内の国有海岸林内
5. 活動面積 2.91ha
6. 名称 「名取市民の森」

②東日本大震災被災地域における「森のつみ木広場」活動

子どもたちの遊び場や心を開放する場の提供を目的として、東日本大震災の被災地域における「森のつみ木広場」の開催をオルビス(株)の支援により昨年度に引き続き行った。宮城県・岩手県・福島県などの保育園や育児施設を中心に合計11回の「森のつみ木広場」を開催。

平成25年度は「森のつみ木広場」を開催するだけでなく、継続的にそのような場を提供できる体制をつくるために、福島県でのインストラクター養成講座の開催や地元NPOに関わってもらって開催することにより、活動を推進できる人材の育成を行った。さらに地元産材で地元森林組合が作ったつみ木を保育園に寄贈するなど、その地域の力で実施していくためのサポート体制を強化することに力を入れ実施した。

日程	開催先・イベント名
6月18日	NPO法人 こそだてシップ主催 ママサロン【子育て支援イベント】 (岩手県陸前高田市)
7月1日	おさなご幼稚園 (岩手県大槌町)
8月22日	子どもの心と身体の成長支援ネットワーク主催 ニコニコキャンプ 【福島県相馬市の子どもたちを対象としたキャンプ】(栃木県那須塩原)
9月29日	岩手県沿岸広域振興局 保健福祉環境部福祉課主催 災害遺児家庭親子の支援イベント (岩手県大槌町)
9月30日	双葉保育園 (宮城県気仙沼市)
11月5日	NPO法人 こそだてシップ主催 ママサロン【子育て支援イベント】 (岩手県大船渡市)
11月6日	おさなご幼稚園 (岩手県大槌町)
1月14日	波路上保育所 (宮城県気仙沼市)
1月15日	前沢保育所・水梨保育所 (宮城県気仙沼市)
2月5日	福島県相馬市 保健福祉部社会福祉課主催 つみ木インストラクター養成講座 (福島県相馬市)
3月27日	YMCA 東山荘主催「くろっちょキャンプ」 【福島県の放射能汚染の影響が心配される地域の家族向けキャンプ】 (静岡県御殿場市)

## 2. 国際交流・連携促進

### 1) 国際会議等の開催

#### ① 富士山の森づくり 在日各国大使館関係者との理解促進

目的：オイスカが海外で取組んできた地域開発などで関係のある在日各国大使館から大使を含めて3カ国4名の参加を得て実施した。当日は、シカの食害を防ぐためにシカ害対策ネット張りを行った。森林保全活動の実際の作業に参加しながら交流を図る機会を通じて、オイスカの取り組む環境保全活動への理解促進に繋げることができた。

開催日：平成25年6月8日(土)

会場：山梨県鳴沢村

#### ② 環境教育を基礎とした青少年のふるさとづくりに関する国際会議

開催日：平成25年10月11日(金)～12日(土)

会場：熊本市国際交流会館 国際会議室 (熊本県)

参加者数：13カ国 50名

成果：

今年度設立10周年を迎えた熊本県推進協議会(丸本文紀会長)の誘致により、同県での開催が実現した。会議では、創立から50年以上が過ぎ、社会や環境が目まぐるしく変化し続ける中で、オイスカの理念を広く普及し、各国で活動を推進していくための方策や各総局の機能強化などについて活発な協議が行われた。特に成果として、各国で問題として抱えている財政基盤強化に向けた具体的な取り組みについて協議するための財務委員会設置が提案され、満場一致で承認をされた。また熊本推進協議会が女性のネットワークづくりとして組織し、地域社会の活性化などで活躍している「火の国わくわくなでしこ隊」の吉田しのぶ隊長は、「アジアの女性のネットワークと力を結集し活動を盛り上げましょう！」と力強く

呼び掛け、出席者の賛同を得ることができた。

熊本県は、2011年にアジア初、世界で千番目のフェアトレード・シティーに認定されている。14年3月には第8回フェアトレードタウン国際会議が同県で開催されることが決まっていることから、フェアトレードくまもと推進委員会の明石祥子代表から、各総局との連携による具体的なフェアトレード活動の構築に向けた提案がなされ、各国の出席者も関心を示した。同協議会は、企業と個人が一体となり、地元の経済、産業の振興に寄与しながら、ユニークな発想でオイスカ活動を展開している。今回、発揮された調整力を活かし、今後も各総局とのネットワークを構築し、国際協力活動に貢献することが期待される。

出席者：

国名	氏名	職業
バングラデシュ	ヌルル・アラム	会社経営
バングラデシュ	アフィア・ベグム	DPS STS 学校教師
バングラデシュ	アチア・カリド	バングラデシュ総局役員
カンボジア	レン・ソマリー	保険会社部長
香港	仇 永 平	写真家・美美撮影会社社長
香港	ジョニー・リー・キ・ケイ	旅行社経営
香港	黒田祐之進	オイスカ香港カレッジ理事長
香港	石見 康雄	オイスカ香港総局事務局長
インド	リトゥ・プラサド	調査研究員
インド	ミース・クマール	教育専門家
インド	アニケット・シャルマ	アグラバブリックスchool校長
インドネシア	ヨピー・S・バツバラ	会社経営、前国会議員
インドネシア	フェリ・ジョコ・ジュリアントノ	農業省外郭団体理事長
インドネシア	スタルト	資源リサイクル社経営
インドネシア	ディッキー・アリサルファ	コンサルタント
インドネシア	アンガウィラ	インドネシア総局会員
インドネシア	アブドラ・S・バツバラ	インドネシア総局会員
インドネシア	ドゥラン・マルタパ	インドネシア総局会員
インドネシア	鈴木 智治	オイスカカレッジ基金インドネシア駐在代表
日本	中野 良子	オイスカ・インターナショナル総裁
日本	中野 悦子	オイスカ・インターナショナル副総裁
日本	中野 利弘	公益財団法人オイスカ理事長
日本	永石 安明	オイスカ・インターナショナル事務局長
日本	木附 文化	(公財)オイスカ ミャンマー駐在代表
日本	奈良 毅	東京外国語大学名誉教授
日本	廣野 良吉	成蹊大学名誉教授
日本	丸本 文紀	(株)シアーズホーム株式会社社長
日本	栗谷 利夫	近経ファーム代表
日本	山田 浩之	丸光ホールディングス株式会社社長
日本	新屋敷 道保	中部研修センター相談役
日本	廣瀬兼明	西日本研修センター所長
マレーシア	イブラヒム・B・アーマッド	MARA 公団理事長

マレーシア	アズハ・アブドゥル・マナフ	マラ公団投資子会社開発部長
モンゴル	ツブデンドルジ・T	研修生 OB
パキスタン	ムシュタク・イルファン	自営業
フィリピン	アルフレド・G・マラニオン	西ネグロス州知事
フィリピン	ジェット・C・ロハス	フィリピン総局副会長・イロイロ州議会議員
フィリピン	ペドロ・アラーコン	バタド町長
フィリピン	エクセキエル・マラニオン	製粉会社経営
フィリピン	マリリン・D・マラニオン	実業家
フィリピン	アラン・ヌエガ	人材派遣会社経営
フィリピン	渡辺 洋地	オイスカ・バゴ研修センタースタッフ
スリランカ	カラガスウェウエ・S・テロ	僧侶
スリランカ	I・M・ナワナ	元学校校長
スリランカ	A. M. C. K. B. アラハコーン	オイスカ・スリランカ事務所長
台湾	陳炯松	財団法人中正農業科技公益基金會理事長
台湾	許文富	国立台湾大学名誉教授
台湾	林榮彬	郭錫璠先生文教基金会顧問
台湾	張麗華	オイスカ台湾総会秘書長
台湾	潘起揚	オイスカ台湾総会業務部長
台湾	陳佳雯	オイスカ台湾総会会員

### ③東京フォーラム（在日外国公館関係者との国際協力推進意見交換会）

開催日：平成 26 年 3 月 12 日（水）

会 場：衆議院第一議員会館 第 4 会議室

出席者数：14 カ国 15 名

成 果：

14 カ国の大使および大使館関係者を迎え開催された。また、オイスカ国際活動促進国会議員連盟の会長を務める石破茂自民党幹事長、幹事長の三原朝彦衆議院議員にも出席いただいた。石破会長は挨拶の中で、インドネシアやミャンマーなどのオイスカの活動現場を訪問したことに触れ、「オイスカは草の根レベルでの活動を地道に続けている。政府としても重要なパートナーとして連携強化を図っている」と述べ、大使らにも各国政府の一層の協力を申し入れた。

また、オイスカ職員による活動報告では、昨年 11 月に大型台風の被害を受けたフィリピンにおける支援活動や宮城県で取り組む「海岸林再生プロジェクト」に関心が集まり、「島国である我が国も自然災害に対し脆弱である。被害軽減のための取り組みや行動の重要性を学んだ」（パラオ大使）といった感想が寄せられた。

### ④国際森林デー2014 みどりの地球 ～国際交流・海の森植樹～

開催日：平成 26 年 3 月 21 日（金）

主催： 「国際森林デー2014」実行委員会

（ 公財）オイスカ、（公財）国土緑化推進機構、（公財）森林文化協会  
（ 特非）樹木・環境ネットワーク、林野庁 ）

共催： 東京都港湾局

会 場：東京都「海の森」

参加者数：300名

成 果：

森林の大切さを知る日として、国連が定めた「国際森林デー」の記念行事として開催し、駐日各国大使館や国際機関の関係者、日本人の親子らが参加した。植樹を通して樹木に親しんでもらおうと企画されたもので、当日は500本のタブノキやシイなどの苗木が植え、同時に「五大陸の木」の記念植樹も行い交流を図った。

## 2) 海外協力機関との交流

### ①『国際フォーラム2013』（ビジネスフォーラム&アジア太平洋青年フォーラム）

期 間：平成25年9月12日～20日

訪問国：マレーシア

訪問者：中野利弘、永石安明、林 洋史、東海林珠代、中西佑輔、アンジェラ・タイコ

目 的：

1. ビジネスフォーラムでの日本会員企業とのセミナー参加
2. アジア太平洋青年フォーラムでのステージ発表の開催
3. マレーシア政府及び、カウンターパート関係者等との意見交換 等

成 果：

オイスカとマラ公団との共催で開催し、日本からは中小企業約45名が参加した。マハティール前首相をはじめとするマレーシア政府要人も多く参加し、マレーシアとの接点を持ち活動に発展させていくための機会となった。また、アジア太平洋青年フォーラムは10年ぶりの開催であり、今後定期的に開催できるための足がかりを構築し、海外組織の活性化につなぐことができた。

### ②オイスカ研修生OB・高校卒業生との意見交換会

期 間：平成25年11月28日～12月12日

訪問国：インド

訪問者：林 洋史、林久美子、渡邊 忠

目 的：

1. インド政府・カウンターパート団体関係者との懇談等
2. 卒業生・研修生OBとの懇談国際機関及び、NGO関係者との意見交換 等

成 果：

インドは独自に資金獲得に努めプロジェクトを推進しており、特に南インド総局では、飲料水の供給や女性のための職業訓練といった40ものプロジェクトを展開。いずれも世界銀行などからの資金を活用し、貧困削減など社会の問題解決に貢献できるよう地域社会と協働で実施している。現地政府関係者からはオイスカ活動が高く評価されていることを伺うことができた。

## 収益事業

### 総括

当法人所有の固定資産の有効活用や公益目的事業と位置付けられない受託事業等を実施、利益の50%を公益目的事業に資した。

### 1. 駐車場等賃貸

(1)所在地:東京都杉並区和泉三丁目 145.70 m<sup>2</sup>

貸与先:ミウラクリエイト(株)

※賃貸借契約(平成25年8月末に解約)

(2)所在地:福岡県福岡市内浜一丁目 400.00 m<sup>2</sup>

貸与先:三菱UFJリース(株)

※事業用定期借地権設定契約(平成23年7月28日から満20年)

### 2. 農場管理委託業務

(1)委託場所:愛知県豊田市勘八町(豊田市旧畜産センター) 58,371 m<sup>2</sup>

管理棟及び農場等の管理

委託者 :豊田市

※業務委託契約



## 組織の運営

平成 25 年度においては評議員会を 4 回、理事会を 5 回開催し、健全な運営に努めた。会議、役員、職員に関する件は次のとおりである。

### 1. 会議の開催

#### (1) 評議員会

##### ① 平成 25 年度定時評議員会

日時：平成 25 年 6 月 19 日(水)

場所：衆議院第一議員会館会議室

- 議題：1. 平成 24 年度事業報告・決算書類（案）及び監査報告  
2. 定款の変更（案）について  
3. 特定資産の取崩及び使途等の変更、並びに本部の土地有効活用計画（案）について  
4. 各会計間の精算（案）について  
5. 平成 25～26 年度役員（理事）の選任（案）について  
6. その他（報告事項等）

##### ② 平成 25 年度臨時(書面)評議員会

日時：平成 25 年 6 月 18 日(火)

場所：法人法第 194 条に定める評議委員会の決議の省略による

議題：平成 25 年度臨時評議委員会（書面審議）について

- 議案：1. 定款の変更（案）について  
(定款第 4 条等の内容変更)

##### ③ 平成 25 年度第 2 回臨時(書面)評議員会

日時：平成 25 年 8 月 20 日(火)

場所：法人法第 194 条に定める評議委員会の決議の省略による

議題：平成 25 年度第 2 回臨時評議委員会（書面審議）について

- 議案：1. 定款の変更に伴う条文整理（案）について  
(定款第 4 条の条文内整理)

##### ④ 平成 25 年度 臨時評議員会

日時：平成 25 年 11 月 5 日(火)

場所：衆議院第一議員会館会議室

- 議題：1. 資産取得資金の目的外取崩し(案)について  
2. 公益目的事業会計の法人会計からの借入れ返済処理について(案)  
3. オイスカハウス（仮称）建設に係る費用の法人会計について（案）  
4. その他（報告事項等）

#### (2) 理事会

##### ① 平成 25 年度第 1 回 理事会

日時：平成 25 年 6 月 3 日(月)



場所：衆議院第一議員会館会議室

議題：1. 平成 24 年度事業報告・決算書類（案）及び監査報告  
2. 平成 24 年度新規賛助会員の承認（案）について  
3. 定款の変更（案）について  
4. 資産取得資金の用途変更（案）について  
5. 規程の新規追加制定（案）について  
6. 顧問、参与の委嘱（案）について  
7. 評議員会の議案追加について  
8. その他（報告事項等）

② 平成 25 年度第 2 回 理事会

日時：平成 25 年 6 月 19 日（水）

場所：衆議院第一議員会館会議室

議題：1. 代表理事、業務執行理事の互選（案）について  
2. 顧問の委嘱（案）について  
3. その他（報告事項等）

③ 平成 25 年度第 3 回（書面）理事会

日時：平成 25 年 8 月 20 日（火）

場所：法人法第 197 条（同第 97 条に準ずる）に定める理事会の決議の省略による

議題：平成 25 年度書面理事会について

議案：1. 平成 25 年度第 1 次補正予算（案）について  
2. 本部住所の移転（案）について

④ 平成 25 年度第 4 回理事会

日時：平成 25 年 11 月 5 日（火）

場所：衆議院第一議員会館会議室

議題：1. 資産取得資金の目的外取崩し（案）について  
2. 公益目的事業会計の法人会計からの借入れ返済処理について（案）  
3. オイスカハウス（仮称）建設にかかる費用の法人会計対応について（案）

⑤ 平成 25 年度第 5 回理事会

日時：平成 26 年 3 月 7 日（金）

場所：衆議院第一議員会館会議室

議題：1. 平成 25 年度補正予算（案）について  
2. 平成 26 年度事業計画・予算（案）について  
3. 旧本館の根抵当権譲渡移転（案）について  
4. 平成 26 年度定時評議員会の開催（案）について  
5. その他（報告事項等）

## 2. 役員

平成 26 年 3 月 31 日現在における当法人の役員等は次の通りである。

## (1) 評議員

No.	氏名	役職
1	荒木 光 弥	(株)国際開発ジャーナル社 主幹
2	岡田 康 男	弁護士
3	岡本 隆 之	(公財)国際文化交友会 常務理事
4	神野 重 行	(株)名鉄百貨店 取締役相談役
5	篠塚 徹	拓殖大学北海道短期大学 学長
6	進士 五十八	早稲田大学大学院 客員教授
7	常盤 百 樹	四国電力(株) 取締役会長
8	中村 利 雄	日本商工会議所 専務理事
9	廣野 良 吉	成蹊大学 名誉教授
10	ペマ・ギャルポ	桐蔭横浜大学大学院 教授

## (2) 代表理事

No.	氏名	役職
1	中野 利 弘	理事長
2	渡邊 忠	副理事長

## (3) 業務執行理事

No.	氏名	役職
1	永石 安 明	専務理事
2	廣瀬 道 男	常務理事

## (4) 理事

No.	氏名	役職
1	新屋 敷 道 保	オイスカ沖縄事務所 所長
2	杉浦 正 行	元安城市長
3	樋泉 克 夫	愛知大学 現代中国学部 教授
4	榊本 晃 章	(一社)日本動力協会 会長
5	松尾 新 吾	九州電力株式会社 相談役

## (5) 監事

No.	氏名	役職
1	榎本 哲 也	弁護士
2	神山 敏 夫	税理士・公認会計士
3	鈴木 稔 充	弁護士

(50音順、平成26年3月31日現在)

## 組織の運営

### (6) 顧問

No.	氏名	役職
1	太田 猛彦	東京大学名誉教授
2	川口 文夫	中部電力(株) 相談役
3	小林 庄一郎	関西電力(株) 顧問
4	佐藤 忠義	四国経済連合会 相談役
5	新木 富士雄	北陸電力(株) 相談役
6	多田 公熙	中国経済連合会 元会長
7	中野 悦子	オイスカ・インターナショナル 副総裁
8	長岡 實	資本市場研究会 顧問
9	西垣 昭	元大蔵省事務次官
10	長谷川 閑史	経済同友会 代表幹事
11	三村 明夫	日本商工会議所 会頭
12	米倉 弘昌	日本経済団体連合会 会長

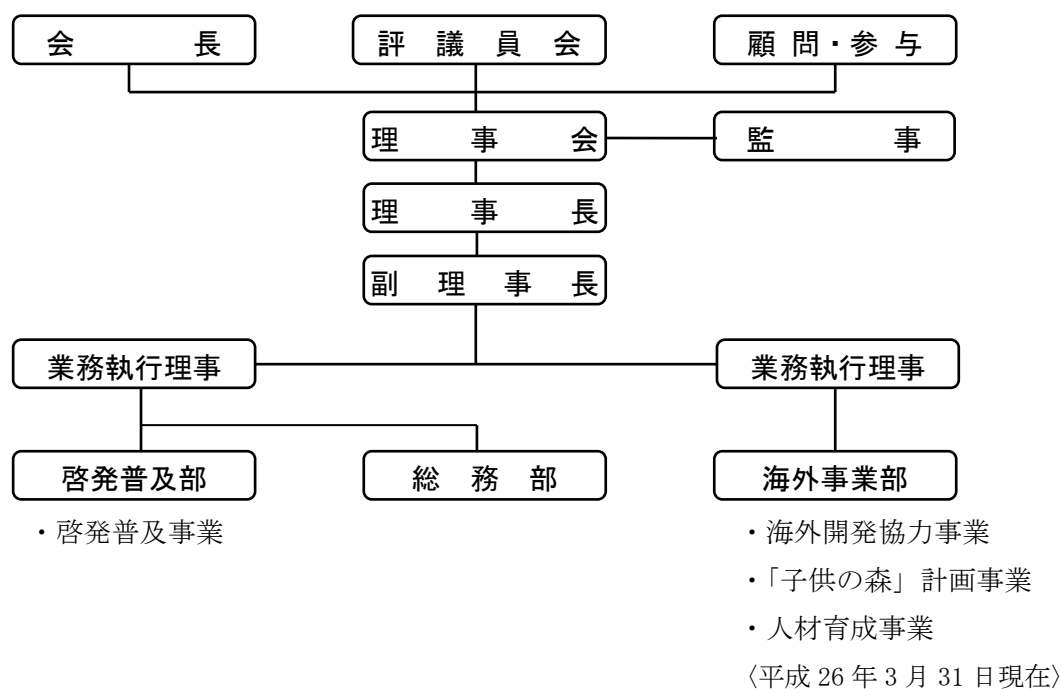
### (7) 参与

No.	氏名	役職
1	石井 淑雄	四国支部 会長
2	井上 雅雄	山梨県支部 会長
3	逢見 直人	UA ゼンセン 会長
4	落合 偉洲	静岡県支部 会長
5	亀井 昭伍	宮城県支部 会長
6	木島 正芳	元東京入国管理局局長
7	小林 泉	大阪学院大学国際学部 教授
8	小林 孝雄	神奈川県ニュービジネス協議会 専務理事
9	茂田 和彦	公益社団法人大日本山林会 理事
10	杉下 恒夫	一般財団法人国際開発機構 理事長
11	鈴木 胖	関西支部 会長
12	畝川 寛	広島県支部 会長
13	関 正雄	公益財団法人損保ジャパン環境財団 専務理事
14	塚田 俊之	長野県支部 会長
15	土井 泰彦	元文教大学教授
16	中村 陽子	NPO 法人メダカのがっこう 理事長
17	宮嶋 祥式	愛媛県支部 会長
18	深山 彬	石川県商工会議所連合会 会長
19	村瀬 恒治	岐阜県支部 会長
20	山下 雅子	社会保険労務士
21	横山 清	北海道支部 会長

〈50音順、平成26年3月31日現在〉

3. 事務機構及び職員

(1) 機構図



(2) 職員

平成 26 年 3 月 31 日現在における本法人職員は次のとおりである。

事務所	職員数
本部	49
西日本研修センター	15
中部日本研修センター	16
四国研修センター	6
関西事務所	4
地方組織	30
合計	120

平成25年4月1日～平成26年3月31日 賛助会員の動向と会費入金額

会員の動向

	期首会員数		期末会員数	
	合計 件数	法人 個人	合計 件数	法人 個人
本部直轄	165	46 119	208	40 168
広島県支部	76	39 37	86	46 40
北海道支部	73	39 34	80	42 38
宮城県支部	108	49 59	114	50 64
首都圏支部	342	148 194	343	152 191
山梨県支部	115	53 62	108	51 57
長野県支部	180	77 103	182	77 105
静岡県支部	294	100 194	283	98 185
愛知県支部	951	236 715	948	236 712
岐阜県支部	151	64 87	153	63 90
富山県支部	141	71 70	148	70 78
関西支部	110	35 75	99	33 66
四国支部	598	151 447	629	152 477
愛媛県支部	166	43 123	148	40 108
西日本支部	943	374 569	856	363 493
合計	4,413	1,525 2,888	4,385	1,513 2,872

会費入金額(千円)

	平成24年度入金額		平成25年度入金額		前年度との 差額	前年度比
	法人 個人	合計	法人 個人	合計		
	2210 1760	4030	2120 3040	5160	1130	128.0%
	2080 850	2,930	2320 830	3,150	220	107.5%
	1480 920	2,400	1740 780	2,520	120	105.0%
	3690 1160	4,850	3540 1280	4,820	-30	99.4%
	12860 4000	16,860	12480 3750	16,230	-630	96.3%
	2500 1330	3,830	2330 1190	3,520	-310	91.9%
	3080 1860	4,940	3040 1930	4,970	30	100.6%
	6320 3310	9,630	5940 3250	9,190	-440	95.4%
	12780 12480	25,260	12310 11460	23,770	-1,490	94.1%
	2800 1840	4,640	2640 1760	4,400	-240	94.8%
	3490 1420	4,910	3410 1440	4,850	-60	98.8%
	2720 1230	3,950	2300 1070	3,370	-580	85.3%
	7160 8614	15,774	7300 9280	16,580	806	105.1%
	1660 2080	3,740	1480 1960	3,440	-300	92.0%
	17750 10770	28,520	16580 10210	26,790	-1,730	93.9%
	82,580 53,624	136,264	79,530 53,230	132,760	-3,504	97.4%

附属明細書

平成 26 年 6 月  
公益財団法人オイスカ

なお、平成 25 年度事業報告書には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。